

配布資料一覧

資料1 議事次第

資料2 「九州地域食育推進協議会」委員出席者名簿

資料3 出席者名簿（委員以外）

資料4 配席表

資料5 九州農政局における食育の取組

資料5 - 2 食育推進基本計画の概要

資料6 九州地域食育推進協議会資料（各県等からの報告）

資料7 「みんなで創ろう 食育アイランド
- 九州地域の特色を活かした食育の推進に向けて -（仮題）」

資料7 - 2 九州地域の「食」と「農」の姿（第1回協議会資料）

資料7 - 3 「3月の食の安全、食育等に関する取組予定について」
（18年2月、九州農政局）

【参考配布】

平成17年度 第1回九州地域食育推進協議会議事録

第1回協議会における委員ご発言のポイント（メモ）

平成17年度第2回九州地域食育推進協議会 議事次第

日 時 平成18年3月2日(木) 14:00 ~ 16:30
場 所 熊本市国際交流会館 国際会議室

1 開 会

2 挨拶

3 出席者紹介

4 議 事

(1)九州農政局における取組状況について

(2)各県における取組状況について

(3)九州地域の特色を活かした食育の推進について

- 休憩 -

(4)意見交換

(5)その他

5 閉 会

「九州地域食育推進協議会」委員出席者名簿

(50音順、敬称略)

あだちゆういち
足立 勇一大分県生活協同組合連合会会長理事
(生活協同組合コープおおいた専務理事)こうだみきこ
郷田 美紀子

薬膳茶房オーガニックごうだ代表

さわのかよこ
澤野 香代子
(渋谷委員代理)

佐賀県栄養士会理事

たけくまよしとか
竹熊 宜孝

公立菊池養生園名誉園長

はやぶちひとみ
早淵 仁美

福岡女子大学教授

ひらた
平田 さおり鹿児島県学校栄養士協議会会長
(鹿児島県始良町立山田小学校栄養職員)みやたけんぞう
宮田 研蔵

生産者(「食と農の体験塾」塾長)

やずみ
矢住 ハツノ

熊本消費者協会顧問

ようふのぶお
養父 信夫

「九州のムラ」編集長

よしだとしみち
吉田 俊道

生産者(「大地といのちの会」代表)

出席者名簿（委員以外）

【県】

福岡県農政部生産流通課流通振興係技術主査	大里 久美
佐賀県くらし環境本部くらしの安全安心課企画調整担当主査	西 博人
長崎県県民生活環境部食品安全推進室係長	栄 千鶴子
熊本県環境生活部食の安全・消費生活課食の安全・食育推進班参事	清田 克弘
大分県生活環境部食品安全・衛生課食品安全班主幹	河野 昭二
宮崎県農政水産部営農支援課消費加工担当主査	長倉佐知子
鹿児島県農政部経営技術課農村生活係	武 貴子

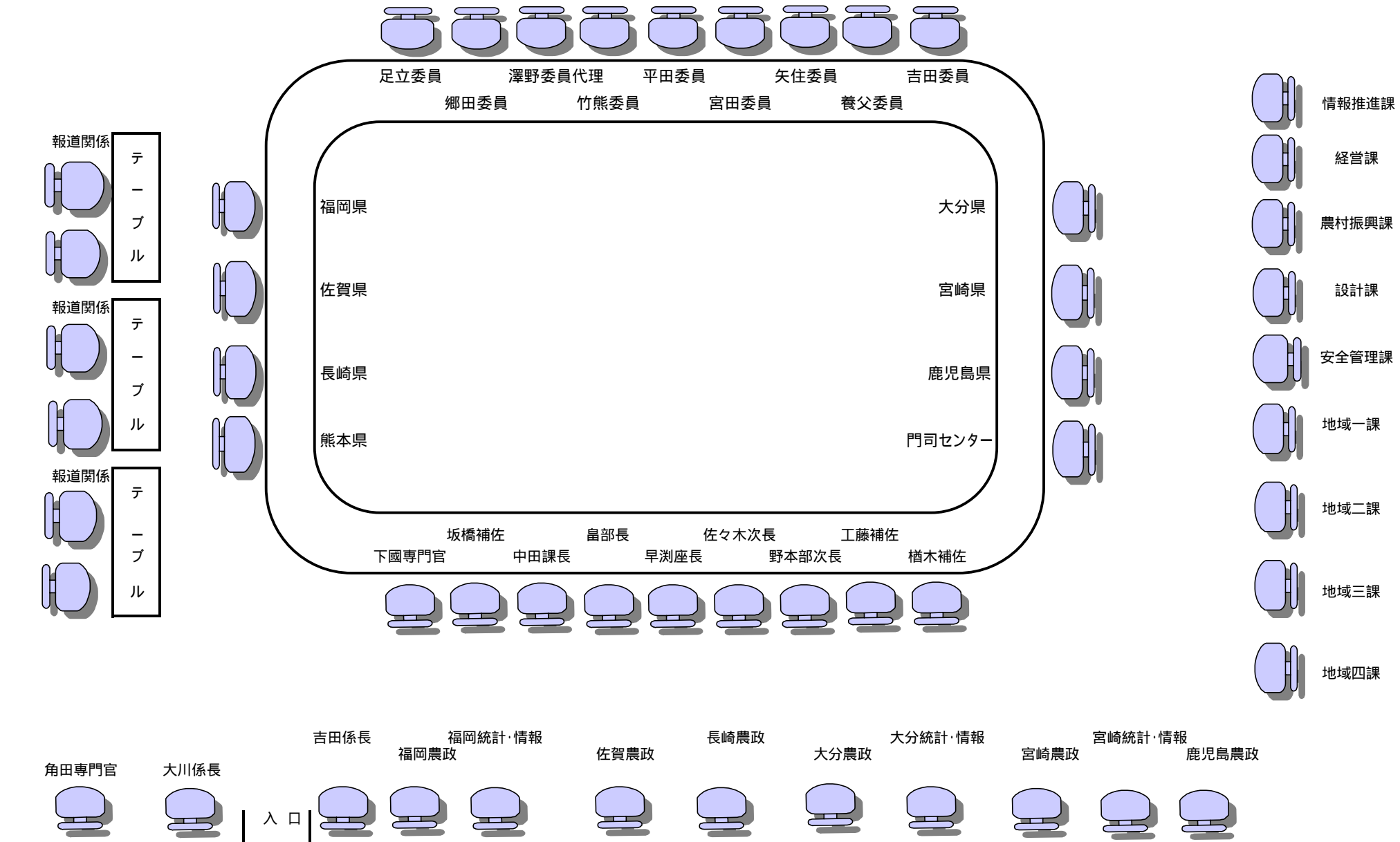
【消費技術センター】

独立行政法人農林水産消費技術センター門司センター 消費者情報課主任調査官	矢野 敏弘
---	-------

【九州農政局】

局次長	佐々木昭博
消費・安全部長	畠 幸司
消費・安全部次長	野本 康夫
消費・安全部安全管理課課長補佐（総務・農産安全）	永井 康夫
企画調整室室長補佐（基本計画推進）	工藤 正孝
総務部情報推進課課長補佐	森田 修
食糧部消費流通課消費拡大係長	福岡 照美
生産経営流通部経営課課長補佐（普及・就農促進）	平野 洋一
農村計画部農村振興課課長補佐（就業改善）	平井 一典
整備部設計課事業調整室長	東 崇史
統計部統計企画課課長補佐（企画）	檜木 重任
福岡農政事務所消費・安全部消費生活課農政業務管理官	田中 公子
福岡統計・情報センタ - 情報課情報第二係長	桑田 敬三
佐賀農政事務所消費・安全部消費生活課課長補佐	陣内 正光
長崎農政事務所消費・安全部消費生活課課長補佐	石丸 博久
大分農政事務所消費・安全部消費生活課消費経済係長	渡辺真美子
大分統計・情報センタ - 情報課課長補佐	小林 典
宮崎農政事務所消費・安全部消費生活課消費経済係長	大山 良子
宮崎統計・情報センタ - 情報課情報第二係長	狩野 国博
鹿児島農政事務所消費・安全部消費生活課農政業務管理官	野元千枝子
消費・安全部地域第一課課長補佐（消費・安全）	北井 和博
消費・安全部地域第二課課長補佐（消費・安全）	川上 英二
消費・安全部地域第三課消費経済係長	丸山謙一郎
消費・安全部地域第四課課長補佐（消費・安全）	星子 國廣
消費・安全部消費生活課長	中田 哲也
消費・安全部消費生活課課長補佐（食育推進）	坂橋 勝久
消費・安全部消費生活課消費者行政専門官	角田 洋介
消費・安全部消費生活課物価係長	吉田 誠司
消費・安全部消費生活課消費経済係長	大川 武士
消費・安全部消費生活課食育情報専門官	下國 敬

資料 4



九州農政局における食育の取組

1 意見交換会、出前講座等の実施

- (1) 食の安全、食品表示、トレーサビリティ、食育（食生活指針、食事バランスガイド等）食料自給率、稲作など幅広いテーマで、様々な関係者と連携しつつ、意見交換会や出前講座（講師派遣）等を実施。

平成17年度（4月～1月）は、九州農政局全体で780件実施しており、対象者数は約4万3千人。



栄養士と連携した出前講座（17.6/16、熊本市内保育園）

- (2) また、これらのうち、農政局（地方農政事務所を含む。）が自ら企画・開催した比較的規模の大きな意見交換会は61回開催し、参加者数は約3600名。

- (3) 特に、消費者と生産者、事業者との「顔の見える関係づくり」に向けての意見交換会等も積極的に開催。消費者等を生産現場に案内し生産者等と意見交換を行う取組も実施。



「食と農を考える意見交換会」（17.8/18、熊本県山都町）

2 各種シンポジウム等の開催

広く一般の消費者等を対象としたシンポジウム、セミナーを開催。野菜・果物、大豆をテーマとしたシンポジウムにおいては、併せて食事バランスガイドの普及活用のための説明会等も実施。

また、毎年1月の「食を考える月間」においては、農政局、農政事務所等において集中的にイベントを実施。

【取組の例】

九州バイテク戦略セミナー「健全な食生活の実現に向けて」(17. 9/13 福岡市)
野菜くだものセミナー「きれいの秘密は野菜とくだもの」(17.11/15 福岡市)
九州大豆フォーラム「考えて食べよう！おいしい九州大豆を食卓に」

(18. 1/18 福岡市)

食を考える月間シンポジウム「食べものさん、ありがとう」(18. 1/28 熊本市)

[別紙]

3 「消費者の部屋」等の取組

農政局、農政事務所に「消費者の部屋」、「消費者コーナー」等を設置し、食育、自給率向上等に関するパンフレット等を配布するとともに、消費者相談を受け付け。また、米まつり、農業祭、収穫祭等の各種イベントの際には「移動消費者の部屋」を出展し、各種パネル展示、資料配付、消費者相談等を実施。

【取組の例】

西日本食品総合機械展・西日本厨房機器展 (17.5/18～20 福岡市)

高千穂小学校文化祭 (17.10/23 宮崎県高千穂町)

鹿児島市農業まつり (17.11/13 鹿児島市)

日田市消費生活展 (17.11/14～16 大分県日田市)

4 NHK食育・健康フェアへの参加

- (1) NHK、農山漁村文化協会等が主催する「NHK食育・健康フェア」が熊本県上天草市(17.9.11)、福岡県古賀市(17.10.2)で開催され、パネル展示、資料配付、消費者相談等を実施。



「NHK食育・健康フェア」(17.9.11、上天草市)

- (2) 上天草市のフェアに参加した「上天草市立上小学校」は、「地域に根ざした食育コンクール2005」において農林水産大臣賞を受賞。



「地域に根ざした食育コンクール」HPより

(http://nipponisyokuiku.net/concour/2005/jusho_01.html)

5 食事バランスガイドの普及活用

- (1) 九州ブロックでの食事バランスガイド説明会を開催(17.8/30熊本市、講師：早淵仁美先生)。福岡市(17.10/3)及び佐賀市(17.12/8)においても関係機関と連携しつつ県段階の説明会を開催。



「食事バランスガイド説明会」(17.8/30、熊本市)

- (2) その他、ポスター、リーフレット等を消費者団体、栄養士会、行政機関、事業者等に配布するとともに、各種イベント等においてもパネル展示等により普及活用を推進。

- (3) なお、熊本市の合同庁舎食堂においても、運営事業者の協力を得て、日替わり定食等のメニューに食事バランスガイドを表示しているところ。



6 食育推進ボランティアの育成

「食の安全・安心確保交付金」の活用により、各県及び関係団体を通して、地域における食育推進を担う「食育推進ボランティア」を育成。

7 子ども向けホームページ「九州農業・漁業大冒険」の作成

小学校高学年から中学生に食料や農業、漁業に関する理解を深めてもらうため、子ども向けホームページを開設(17年4月)。併せて、CD版のソフト、「下敷き」も作成し、学校等での活用を呼びかけているところ。



(アドレス <http://www.kyushu.maff.go.jp/kids/>)

「食を考える月間」シンポジウム 「親子で食育！ - たべものさん、ありがとう - 」を開催しました。

平成 18 年 1 月 28 日(土) 熊本市青年会館ホールにおいて開催したシンポジウムには、小さなお子さんからおじいちゃん、おばあちゃんまで、約 300 名の幅広い方々に参加頂きました。

参加頂いた皆様方、どうもありがとうございました。その模様を報告します。

生野菜人形劇公演 野菜人形劇グループ「ベジタブル」(福岡県若宮町)

本物の生野菜を使った人形劇は、朝ご飯や地産地消の大切さを教えて下さいました。会場からは、子ども達も飛び入りで参加してくれました。

幕間には会場の皆さんと一体となった手踊りやクイズなどで楽しんで頂けたと思います(す〜「ブ」！ は少し恥ずかしかったですね)。



トークショー 「食べものはみんな生きていた」

山下惣一氏(農民作家、佐賀県唐津市在住) 佐藤弘氏(西日本新聞編集委員)

子ども達の代表の皆さんにステージに上がってもらい、佐藤さんと一緒に豆腐の手切りなどに挑戦しました。大学生の食生活には驚きましたね。

山下さんからは、自ら農業を営んでおられる立場から、食べものについて色々とお話して頂きました。学校給食では、給食を作ってくれる人たちだけではなく全ての生き物に対する「いただきます」の心が大事など、印象深い話をして頂きました。



事例発表 熊本市立桜木東小学校、熊本市立武蔵中学校

「食育」といっても、なかなか難しいという印象を持たれている方も多いと思います。しかし2つの事例発表から、食育が身近なものになったと感じて頂いたのではないかと思います。

熊本市立桜木東小学校の皆さんからは、農作業体験も含めた健康づくりの総合的学習の取組について紹介されました。武蔵中学校からは、ヘルスメイトさんと連携し



た詳しい栄養面を含めた調理実習の成果や、世界の飢餓人口まで視野に入れた給食残菜の調査結果について報告されました。2校とも、素晴らしい内容の発表でした。

体験コーナー等

ホールでは1月17日の「おむすびの日」にちなんだ理想のおむすびの絵の展示、別室では体験コーナー（食事バランスガイドの折り紙、野菜350グラムを計ってみよう、お箸で大豆をはさんでみよう、パソコンゲーム等）を設け、多くの子ども達に楽しんでもらいました。

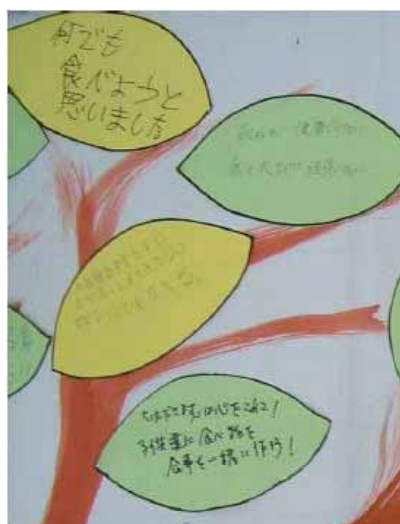


みんなで作ろう「食育の樹」

今回のシンポジウムの主役は、参加された一人ひとりの皆さんでした。

開場時、ホール入り口には、枝だけの「食育の樹」を掲げていました。そして参加された皆さんに、「私たちにできること」等について一人ひとりに書いて貼って下さいとお願いしました。その結果、閉会后には、「食育の樹」はたくさんの葉をつけた立派な樹になっていたのです。

今回のシンポジウムをきっかけにして、さらに「食育の樹」がぐんぐん枝を広げ、大きく成長していくことを期待したいと思います。



九州地域食育推進協議会資料

県 名 福 岡 県 :

担当部署(部・課・係名): 農政部生産流通課流通振興係

1. 食育基本法施行に伴う対応状況

県食育推進会議等の設置状況(条例の制定年月日、予定を含む。)

設置(予定)年月日 : 17年6月1日

会 議 名 : ふくおかの食と農推進会議

- ・農林水産、健康、教育などの行政及び関係団体で構成
- ・新たな条例の制定は考えていない

食育推進計画策定等の状況(スケジュール、ポイント、県庁内における取組体制、策定後の周知方法等)

- ・「ふくおかの食と農推進会議」において、従来からそれぞれの分野で進められている「食」や「農」に係る施策を総合的かつ体系的に推進していくための体制整備や施策の方向性を示す基本指針案を18年2月21日に決定
- ・県の決裁を経て、3月議会報告後、公表
- ・印刷物は、4月以降、各市町村、関係団体等に配付
- ・ホームページでも公表予定

2. その他

九州地域食育推進協議会資料

県名：佐賀県

担当部署(部・課・係名(役職名))：暮らし環境本部くらしの安全安心課企画調整担当

1. 食育基本法施行に伴う対応状況

県食育推進会議等の設置状況(条例の制定年月日、予定を含む。)

設置(予定)年月日：平成18年4月末

会議名：食育ネットワークさが(仮称)

教育(保育所・幼稚園含む。)、消費者、農林漁業者、事業者、CSO(市民社会組織)等の関係団体やマスコミ、市町村等で組織。食育を関係者協働で推進する観点から、会員制のパートナーシップ方式で運営する予定(事務局は県)。

食育推進計画策定等の状況(スケジュール、ポイント、県庁内における取組体制、策定後の周知方法等)

スケジュール

- | | |
|-------|--|
| 1月30日 | 第3回佐賀県食育推進委員会
・佐賀県食育推進基本計画(案)を決定 |
| 2月末まで | パブリック・コメント実施 |
| 3月20日 | 第4回佐賀県食育推進委員会
・佐賀県食育推進基本計画を決定、HPで公開 |
| 4月中旬 | 関係機関に計画書を配付 |

ポイント

- ・保育所、幼稚園、学校で食育推進担当者の配置と食育推進計画の作成を推進
- ・学校に食育推進委員会を設置
- ・保育所、幼稚園における「食育の時間」の創設
- ・医療機関、福祉施設、食事を提供する公立施設における地産地消の推進
- ・食育強化月間(5月)を設定し、食育キャンペーンを実施
- ・食育ネットワークさかの設立、関係者間の情報の共有化、連携強化

県庁内における取組体制

関係課で食の安全安心庁内連絡会議食育部会を組織(事務局：くらしの安全安心課)。関係13課の係長レベルでワーキングチーム会議を構成し、実務的な協議を進めている。

2. その他

九州地域食育推進協議会資料

県名：長崎県

担当部署(部・課・係名(役職名))：県民生活環境部食品安全推進室

1. 食育基本法施行に伴う対応状況

県食育推進会議等の設置状況(条例の制定年月日、予定を含む。)

設置(予定)年月日：平成18年3月末予定

会議名：長崎県食育推進県民会議(仮称)

平成18年3月3日開会の県議会に「長崎県食育推進県民会議条例」を上程

構成 知事：会長 委員30名以内

食育推進計画策定等の状況(スケジュール、ポイント、県庁内における取組体制、策定後の周知方法等)

スケジュール

平成17年8月 食育基本計画、施策を検討する県庁内組織として「長崎県食育推進検討会議」(9部局20課長)を設置、開催

10月～11月 県及び民間関係者で構成する、4分野(家庭・地域 学校・保育所等 生産者、消費者交流促進 食育推進運動)の食育推進幹事会開催

平成18年1月～3月 食育推進計画の素案検討

10月 計画の策定予定

庁内における取り組み体制

(案)長崎県食育推進本部(本部長：副知事、本部員：関係各部長)
" 幹事会 (関係各課長)

策定後の周知

県内各地域において、市町、食育関係者を対象にPR説明会を開催予定

2. その他

・長崎県特有の郷土料理や食材を追加した長崎県版食事バランスガイドの作成

九州地域食育推進協議会資料

県名：熊本県

担当部署(部・課・係名)：環境生活部 食の安全・消費生活課 食の安全・食育推進班

1. 食育基本法施行に伴う対応状況

県食育推進会議等の設置状況(条例の制定年月日、予定を含む。)

設置(予定)年月日：

会議名：

本県では、食育推進会議の設置予定はありません。
(来年度以降、既存の「くまもと食の安全県民会議」を改組し、「くまもと食の安全・食育推進県民会議」として、パートナーシップのもと、食育の推進に取り組む予定)

食育推進計画策定等の状況(スケジュール、ポイント、県庁内における取組体制、策定後の周知方法等)

スケジュール

平成18年2月 計画(素案)作成

平成18年2月9日～3月8日 パブリック・コメント

平成18年3月末 計画策定・公表

ポイント

食生活の乱れに伴う生活習慣病の増加や食の安全上の問題の発生、一方では、食の大切さを忘れがちになっている中、県民一人ひとりが、食に関する正しい知識、食習慣を身に付け、健全で豊かな食生活を実践する能力を育む食育を、総合的、計画的に進めるため、食育基本法に定める基本的施策をもとに計画を策定

県庁内における取組体制

食の安全・消費生活課が中心となって、関係部局と連携・調整しながら計画の取りまとめを実施。また、必要に応じて、関係課長会議を開催。

策定後の周知方法

来年度、計画の概要版(パンフレット)の作成を予定

2. その他

九州地域食育推進協議会資料

県名：大分県

担当部署(部・課・係名(役職名)):生活環境部食品安全・衛生課食品安全班

1. 食育基本法施行に伴う対応状況

県食育推進会議等の設置状況(条例の制定年月日、予定を含む。)

設置(予定)年月日：

会議名：

当面は、平成17年度県庁内の関係課からなる大分県食の安全確保推進本部食育専門部会と、生産者、流通販売業者、消費者からなる大分県食品安全県民会議を活用することで対応し、法に定める食育推進会議は設置しない。

食育推進計画策定等の状況(スケジュール、ポイント、県庁内における取組体制、策定後の周知方法等)

食育推進計画の策定状況

1月26日～2月25日 パブリックコメント実施

平成18年3月策定

食育推進計画のポイント

2つの基本目標

健やかに食を楽しむ心豊かな人づくり

次世代へ受け継がれる活力ある地域づくり

3つの基本視点

健全な食生活を実践できる県民の育成(世代ごとの取組)

魅力あふれる"地域の食"づくり(地域での取組)

食を育む環境との共生(次世代につなぐ取組)

県庁内の取組体制

県庁内の食に関する横断組織である食の安全確保推進本部内に関係課からなる食育専門部会を平成17年度設置

食育推進計画の周知方法

周知啓発用のリーフレットを作成し、市町村、関係団体への説明を実施する。

県庁ホームページに食育コーナーを設ける

2. その他

九州地域食育推進協議会資料

県名：宮崎県

担当部署(部・課・係名(役職名))：農政水産部営農支援課消費加工担当 主査

1. 食育基本法施行に伴う対応状況

県食育推進会議等の設置状況(条例の制定年月日、予定を含む。)

当県においては、平成13年度以降、知事を会長とする「みやざきの食と農を考える県民会議」を推進主体に食育及び地産地消に取り組んでおり、庁内では、副知事を会長とする「宮崎県食の安全・安心対策会議」において、食の安全・安心基本方針(H17.3策定)、食の安全・安心アクションプラン(H17.9策定)の推進項目の一つとして食育を進めてきた経緯がある。

当県としては、これまで取り組んできた経緯を踏まえ、新たな組織を設置するのではなく、既存の体制のさらなる強化等を図りながら、食育を推進していくこととしている。

別紙「食育に係る推進体制(案)」を参照

3/28に開催する対策会議において、計画の策定を含めて方針を決定する予定

食育推進計画策定等の状況(スケジュール、ポイント、県庁内における取組体制、策定後の周知方法等)

策定スケジュール

4月～8月	食育推進プロジェクトチーム会議(関係課担当リーダー) 月1回程度のペースで計画についての検討
6月	みやざきの食と農を考える県民会議 食育部会 計画について有識者からの意見聴取
7月	宮崎県食の安全・安心対策会議 食育専門部会(関係課長) 計画素案とりまとめ
8月	パブリック・コメント
9月	宮崎県食の安全・安心対策会議 計画決定

ポイント

食育推進基本計画を基本として「宮崎らしさ」を盛り込むよう努めるとともに、目標値を設定し、施策の成果や達成度を客観的に把握できるようにする。

策定後の周知方法

県庁ホームページに掲載するほか、関係機関・団体等への配布を行う。

2. その他

「いただきます」からはじめよう宣言

平成17年11月13日に開催した「みやざきの食と農を考える講演会」において、県民会議会長(知事)をはじめ、生産者、食品製造者、消費者、PTA等の各団体の代表者や農業高校生による宣言を行った。

<宣言の内容>

- 1 私たちは、食事の時にはいつでも、「いただきます」の言葉に乗せていのちの恵みへの感謝の気持ちを伝えます。
- 2 私たちは、地産地消や「食」と「農」の学習を通して、健康で安心できる食生活の実現をめざします。
- 3 私たちは、消費者と生産者の交流を通して、お互いの信頼関係をしっかりと築きます。

宣言に対する反響

毎日新聞 東北・関東・甲信越エリア版(18年1月21日)～別紙

「いただきます」を考える記事の中で、「宮崎では推進運動 食を見直す問題提起に」として紹介された。

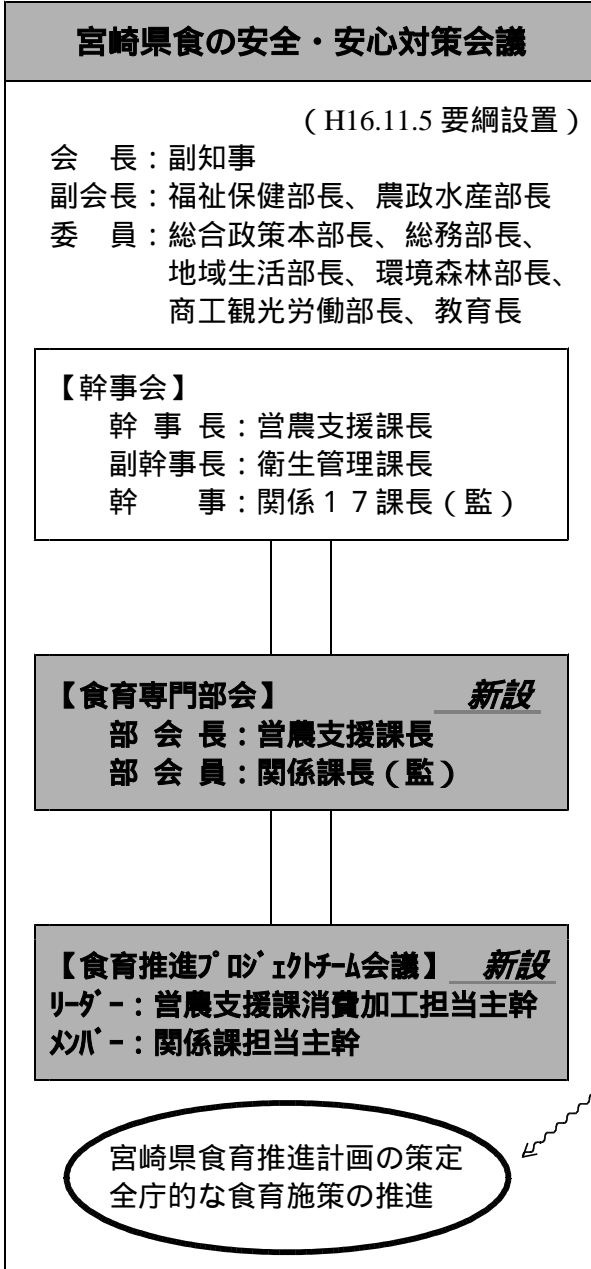
週刊誌「女性セブン」(18年2月9日発売)

「いただきます」を考える特集の中で、当県の取組について紹介された。

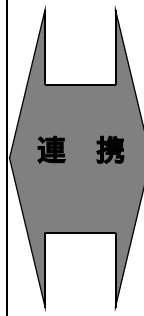
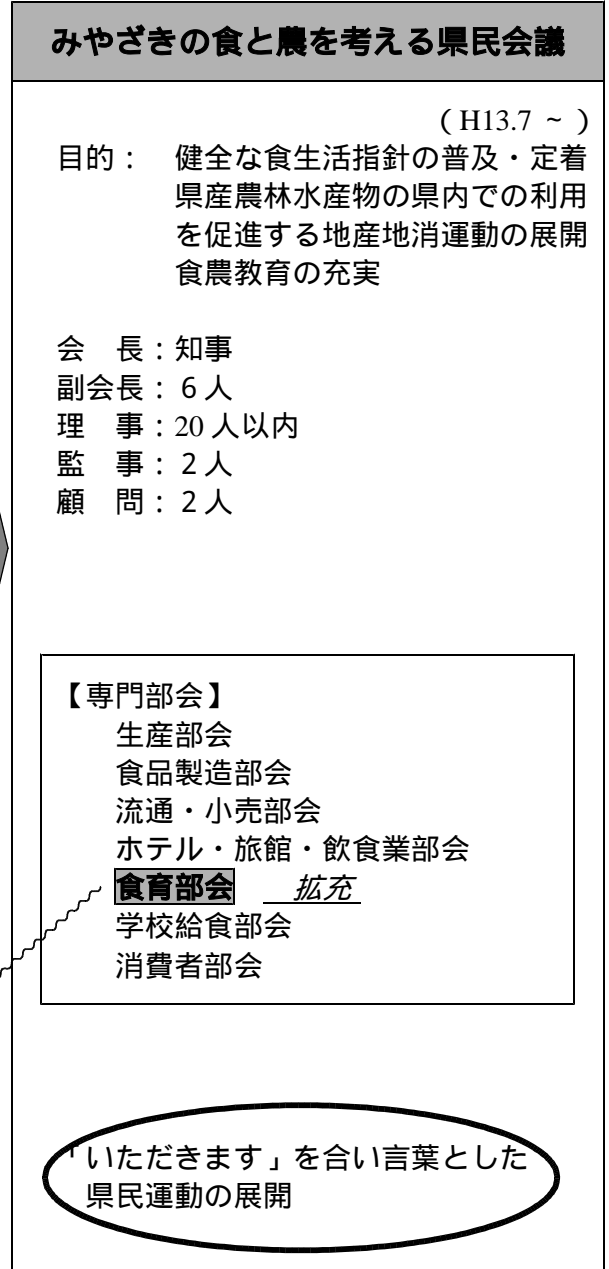
産経新聞東京本社文化部生活班から取材～記事は未確認

食育に係る推進体制（案）

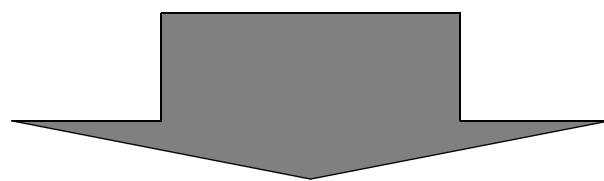
《食育行政の推進》



《県民運動としての食育の推進》



意見
助言



県民と行政が一体となった食育の推進

九州地域食育推進協議会資料

県名：鹿児島

担当部署(部・課・係名)：農政部経営技術課農村生活係

1. 食育基本法施行に伴う対応状況

県食育推進会議等の設置状況(条例の制定年月日、予定を含む。)

設置(予定)年月日：平成13年6月8日

会議名：かごしまの“食”交流推進機構

- 1 条例の制定については予定なし
- 2 県食育推進会議については、上述のとおり、既存の「かごしまの“食”交流推進機構」を位置付ける。

食育推進計画策定等の状況(スケジュール、ポイント、県庁内における取組体制、策定後の周知方法等)

- 1, スケジュール
平成18年3月末策定予定
- 2, ポイント
地産地消を基本とした健康で豊かな食生活の普及・定着を図るために、「かごしまの“食”交流推進計画」(平成14年3月策定)を策定しており、この計画の見直しを行い、本県の食育推進計画として位置付ける。
見直しにあたっては、食育基本法、食育推進基本計画案(国)、かごしまの“食”交流推進機構幹事会での意見、「かごしま食と農の県民条例」に基づく基本方針等を踏まえ、検討を行っている。
- 3, 県庁内における取組体制
かごしまの“食”交流推進庁内連携会議(6部17課)において、見直し案について検討を行っている。
- 4, 策定後の周知方法
市町村や地域かごしまの“食”交流推進協議会等を通じて周知の予定である。

2. その他

食育セミナーの開催

1 開催日 18年2月8日

2 場所 鹿児島市

3 対象者

保育園、幼稚園関係者等 100名

4 内容

(1) 全体テーマ

「家庭での食育を考える」

(2) 食育に関する事例発表、全体討議

5 主な意見

- ・保護者を育てることが大切。子どもから情報を与えて保護者に伝えていく。
- ・保育園や幼稚園に入る前から家庭での対応が大事だと考える。

九州地域食育推進協議会提出資料

(独)農林水産消費技術センター門司センター

担当部署(課・係名(役職名)):消費者情報課 (主任調査官)

18年度における食育に係る取組予定について

- ・消費生活展出展の際の、食事バランスガイドパネル展示及び食育関連パンフレット配布
- ・庁舎1階での特別展示時に、食事バランスガイドパネル展示及び食育関連パンフレット配布
また、庁舎1階の入所官庁紹介コーナー(常設)にて、食育関連パンフレットの配布
- ・消費者団体等からの要請による(依頼)講習会、消費技術センターが主催する講習会・研修会での食育に関する情報の提供・啓発等の側面からの支援。
- ・センター内の消費者コーナー(常設)において、食事バランスガイドのポスター掲示、及び食育関連パンフレットの配布

「みんなで創ろう 食育アイランド九州」

- 九州地域の特色を活かした食育の推進に向けて -

(仮題)

1 食育をめぐる動き

国民の食生活をめぐる環境の変化に伴い、国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむための食育を推進することが緊要な課題になっています。

昨年6月には「食育基本法」が成立し、現在、内閣府に設置された食育推進会議において、年度内を目途に食育推進基本計画の策定作業が行われています。また、同月には、適正な食事の摂取量を分かりやすく示した「食事バランスガイド」が決定・公表されたところです。

さらに、昨年3月に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」においては、食料自給率の向上に向けて重点的に取り組むべき事項の1つとして「分かりやすく実践的な食育」が掲げられています。

九州管内の各県においても、これらの動きを受け、県独自の食育推進のための計画作りが進められています。さらには、九州の各地域においては、栄養士、食生活改善推進員、医師、消費者団体、NPO法人、農業者・農業団体、小中学校、大学、民間企業など様々な関係者により、地域の特徴を活かした多様でユニークな食育の取組が盛んに実践されています。

2 九州地域の「食」と「農」の姿

食育推進に当たって、九州地域は、他の地域に比べて有利な面（特色）がいくつかあります。その第一は、やはり年間を通して温暖で比較的降水量も豊富で、多様な農業が営まれていることです。

そのため、食と農の間の距離が比較的近く、様々な体験活動が行われています。また、学校給食にも地場農産物が積極的に取り込まれています。さらには、女性起業や農家民宿等の取組も盛んに行われています。一方、各地域には、全国的にも有名な様々な郷土料理・伝統食や、豊かな自然条件等を活かした特産品があるなど、豊かな食文化が花開いていると言えます。

もう1つの特色は、九州の農業は総じて環境に配慮した取組が盛んであるということです。いわゆるエコファーマーの数は全国の約3割を占めるとともに、農薬や化学肥料の投入量は全国平均に比べて少なく、逆に生ゴミを含む有機質資材の投入量は多くなっています。

しかしながら、九州地域の平均寿命は総じて長い方とは言えず、生活習慣病による死亡者数は多い状況にあります。また、食品ロス率が高いなど問題点も少なくありません。

3 九州地域の特色を活かした食育の推進について

(1) 以上のような状況を踏まえれば、九州地域においては、多様な関係者との連携の下、食と農の距離が比較的近いといった九州地域の特色を活かし、様々な体験活動を核とした食育活動を推進していくことが重要と考えられます。食は命と直結しています。それを実感するためには、実際に体験することが最も効果的と考えられるためです。

(2) 九州の各地域においては、様々な関係者が多様な食育活動に取り組んでおり、全国的に見ても先進的な取組みも数多くあります。しかしながら、残念ながらこれらの多くは点的な存在に留まっており、相互の連携は十分とは言えず、そのために効果も一定の範囲に留まっているのが実態です。

(3) このため、九州農政局としては、食育に関連して九州ブロックを管轄する唯一の国の出先機関として、様々な関係者や行政が実施している体験活動を中心とした食育活動に関し、県の範囲を超えた情報発信や情報交換の支援を行うこととします。

また、郷土料理等を見直すとともにバランスのとれた食生活を普及させていくため、地域の郷土料理や伝統食をベースとした「九州地域版食事バランスガイド」の作成を推進していきます。

4 18年度における九州農政局としての具体的な取組内容

九州農政局としては、食育に関連して九州ブロックを管轄する唯一の国の出先機関として、地域において多様な食育を実践されている様々な方々との連携を一層緊密にしつつ様々な取組みを行っていきませんが、当面の具体的な取組として、以下について実施することとします。

(1) 九州地域食育データベース（仮称：食育アイランド九州）の作成

九州地域において多様な関係者が行っている体験活動を中心とした様々な食育活動について体系的に情報を収集し、プレスリリース、ホームページ掲載等により積極的に情報発信（様々な体験活動実施者等の情報発信を支援）していきます。

[内容]

「食の安全、食育カレンダー」の作成・公表

九州地域において食の安全や食育に関して実施される様々なイベント、セミナー、体験活動等の情報を収集し、毎月1回プレスリリースを行うとともに、ホームペー

ジに掲載（随時更新）

農政局、各県等の行政が主催するイベント等だけではなく、多様な関係者が実施する様々なイベントについても幅広く情報を収集し発信。

特に農政局では、消費者の方々を生産、加工等の現場に案内して生産者、事業者等との「顔の見える関係作り」に向けての意見交換会を積極的に開催。

「食の体験マップ」の作成・公表

九州の各地域において、体験活動を始め様々な食育活動に取り組んでいる多様な関係者の活動内容、イベント情報、連絡先等について幅広く情報を収集し、情報発信を支援。

（２）地域版食事バランスガイドの作成の推進

各県あるいは各種団体等が行う郷土料理や伝統食、特産品をベースとした地域版の食事バランスガイドの作成を推進するとともに、九州ブロック版の食事バランスガイドの作成を検討します。

[内容]

各県や関係団体等が行う作成作業を支援。

作成された「地域版食事バランスガイド」は、（１）の食育データベースにおいて公表。

九州農政局として、九州ブロックの各種郷土料理等をベースとした「九州ブロック版食事バランスガイド（仮称：うまかバランスガイド）」の作成を検討。

以上

九州地域の「食」と「農」の姿

【総論】

1 九州地域が全国に占めるシェアをみると、土地面積、世帯数、人口では約 11 %、国内総生産では約 9 %、製造業の事業所数では約 7 %。

これらに対し、耕地面積では約 12 %、農家数では約 15 %、農業従事者数では約 17 %、農業産出額では約 19 %、食品製造業の事業所数では約 14 %と、農業、食料関係ではシェアが大きい。

一方、福岡市（人口 140 万人、17 年 9 月）、北九州市（100 万）の 2 つの政令指定都市を始め、熊本市（67 万）、鹿児島市（61 万）など大消費地を抱えている。

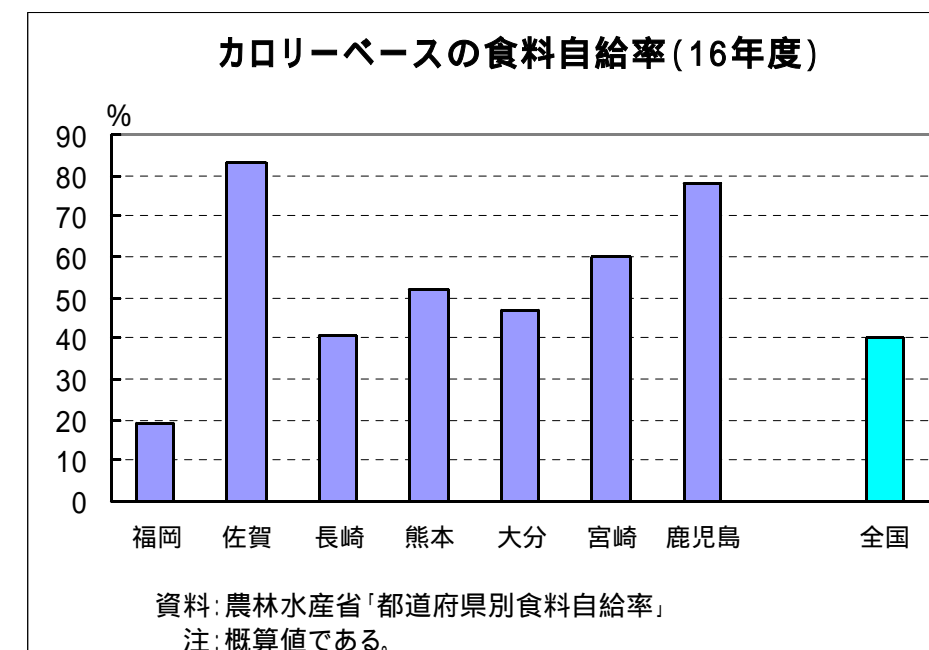
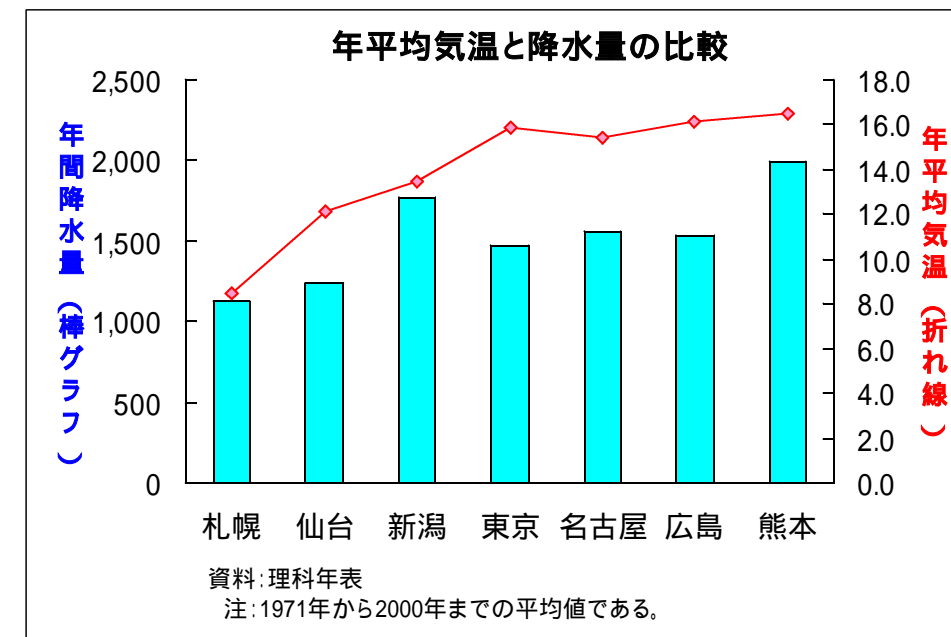
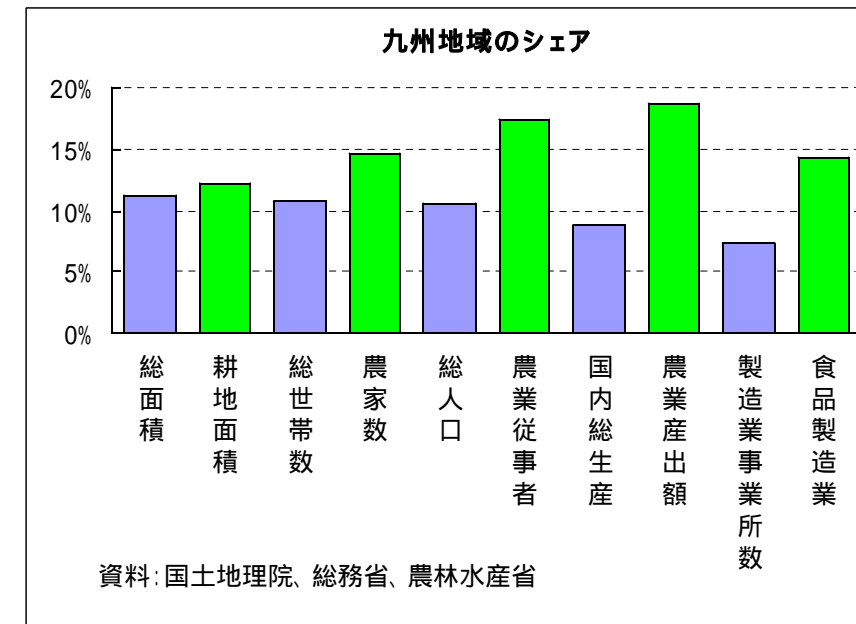
2 九州地域は、年間を通じて温暖で降水量も相対的に多い。

これら恵まれた気象条件や多様な地勢を活かし、特色ある多様な農業が展開されており、わが国の重要な食料供給基地となっている。

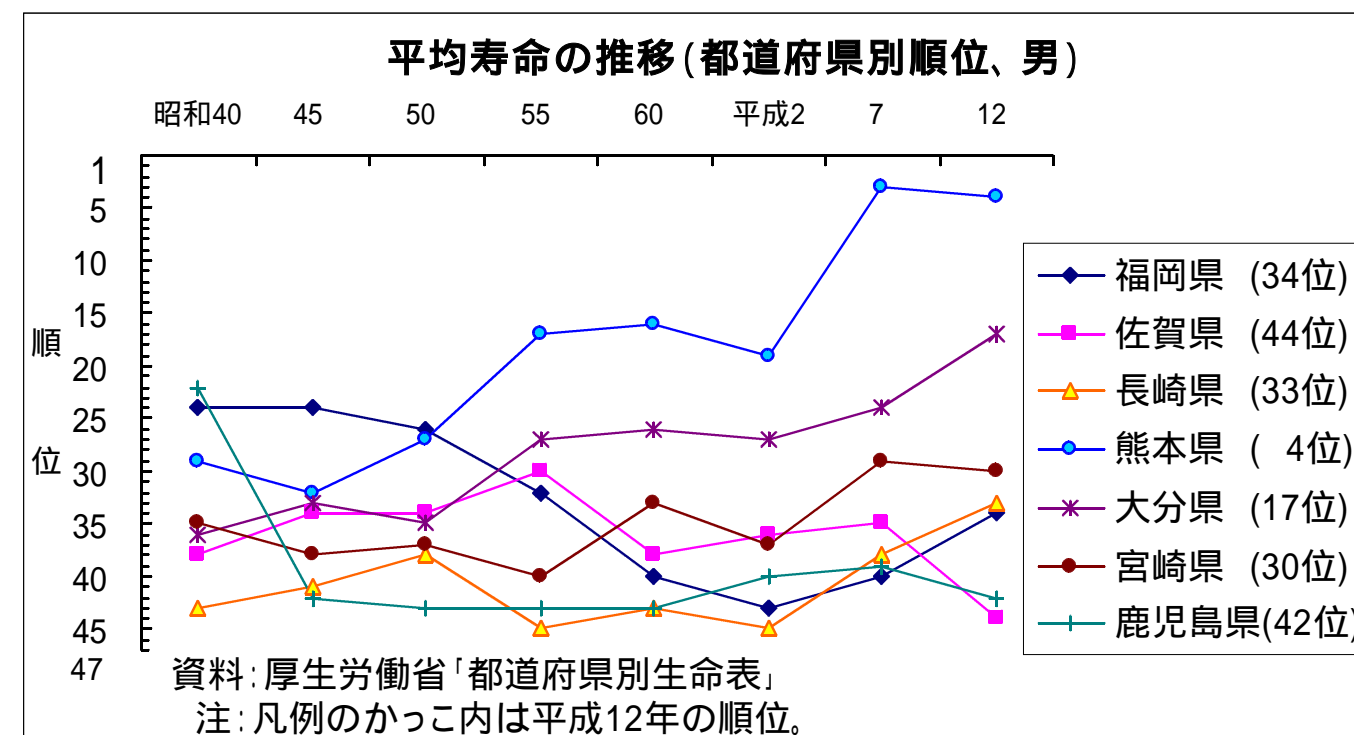
3 九州各県の食料自給率は、福岡（22 %）が全国平均（40 %）を大幅に下回っているのを除けば全国平均より高く、佐賀（87 %）、鹿児島（78 %）は特に高い水準。

資料 7 - 2

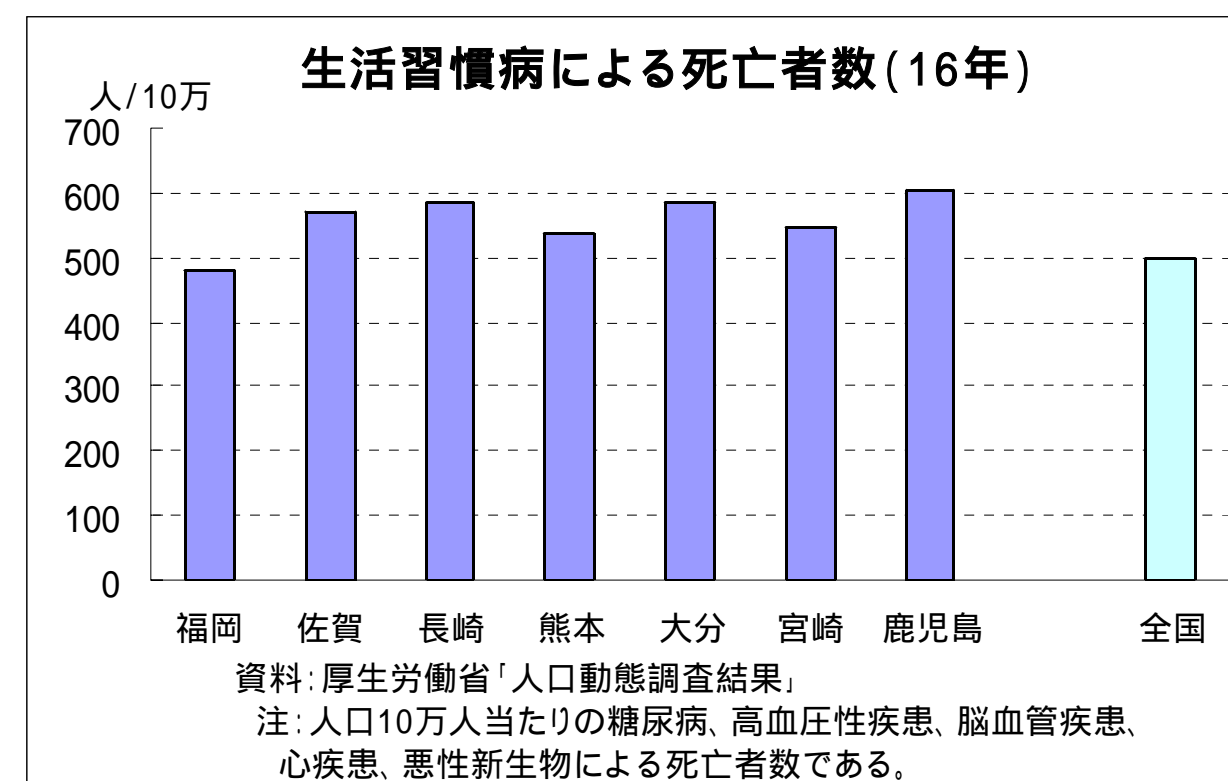
（第 1 回協議会資料）



4 九州地域の平均寿命は、全国の順位で見ると熊本県（男性、4位）を除いて総じて高いとは言えず、過去40年の間に順位が低下した県も。



5 また、生活習慣病による死亡者数も全国平均より多い水準。



【食料消費】

- 1 各地域には特色があり全国でも有名な郷土料理や伝統食があり、学校給食にも地場農産物が多く取り入れられているなど、総じて豊かな食生活が実現。

「食べてみたい」郷土食トップ5

1	ちゃんぽん・皿うどん	長崎
2	関アジ・関サバ	大分
3	さつまあげ	鹿児島
4	黒豚料理	鹿児島
5	メロン	熊本

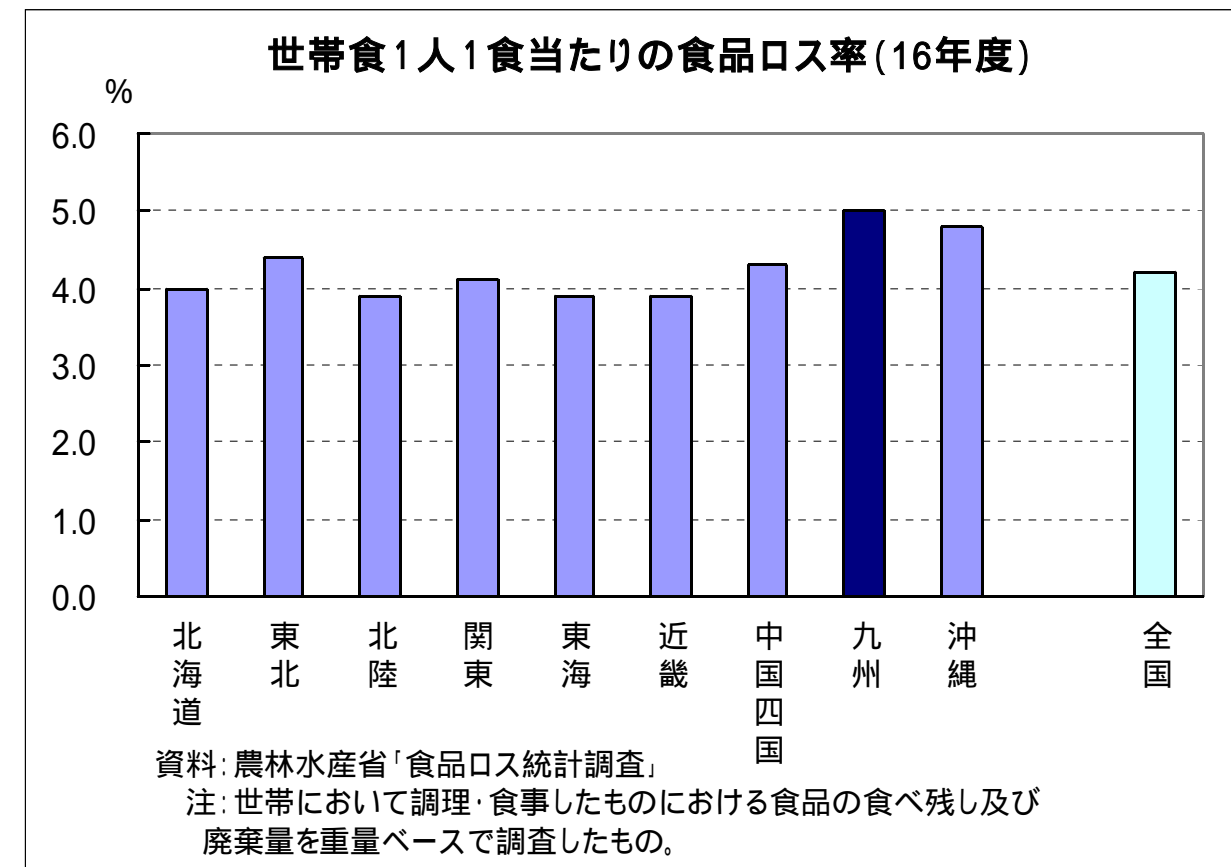
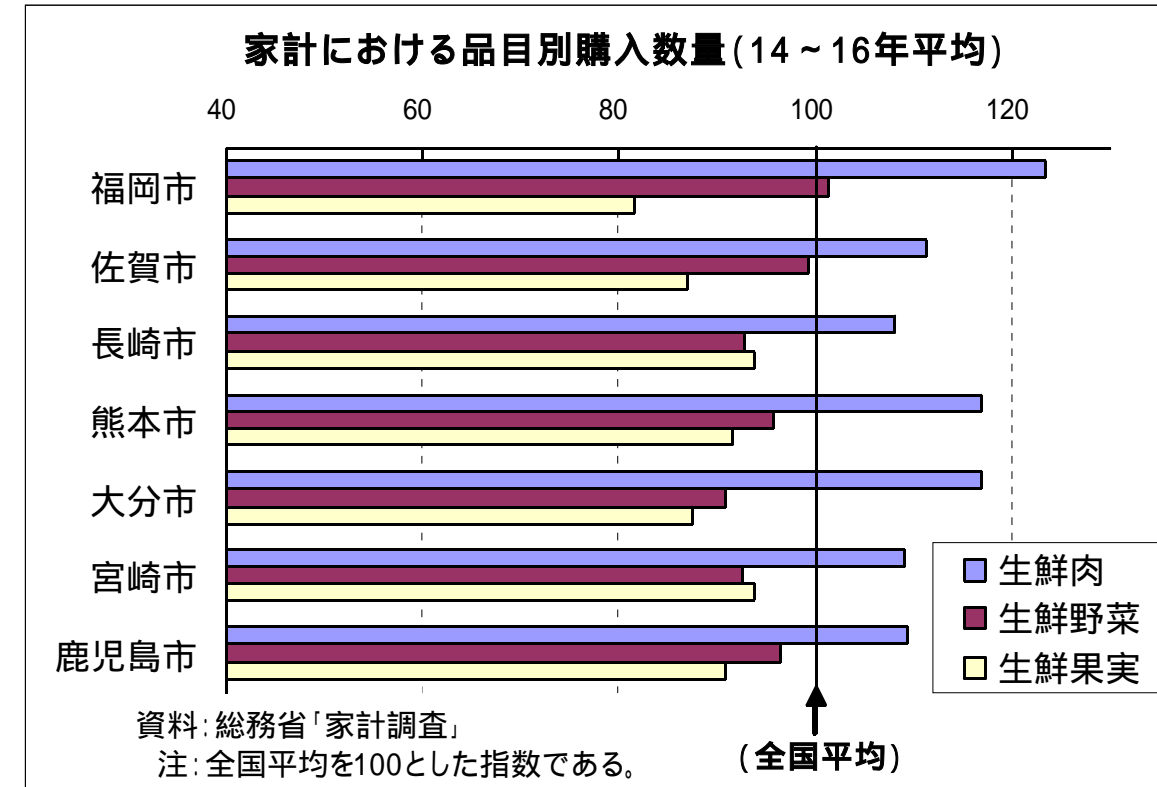
資料:九州シンクタンク六社会

「食と環境に関する意識調査」(2005.5)

- 2 家計調査で食品の購入量を見ると、全国平均に比べ、九州各県の県庁所在地においては、肉類は多く、野菜や果実が少ないという特徴。

- 3 九州における世帯食（世帯において調理・食事したもので、外食、学校給食を除いたもの。）1人1世帯当たりの食品使用量は 1,053 g、食品ロス量は 52.2 g で、食品ロス率は 5.0 % である。

これは全国平均（4.2 %）及び他地域を上回り、最も高い水準。

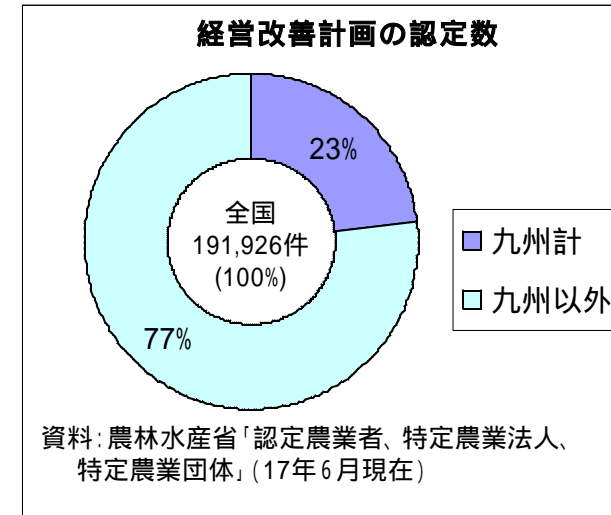


【担い手、農業】

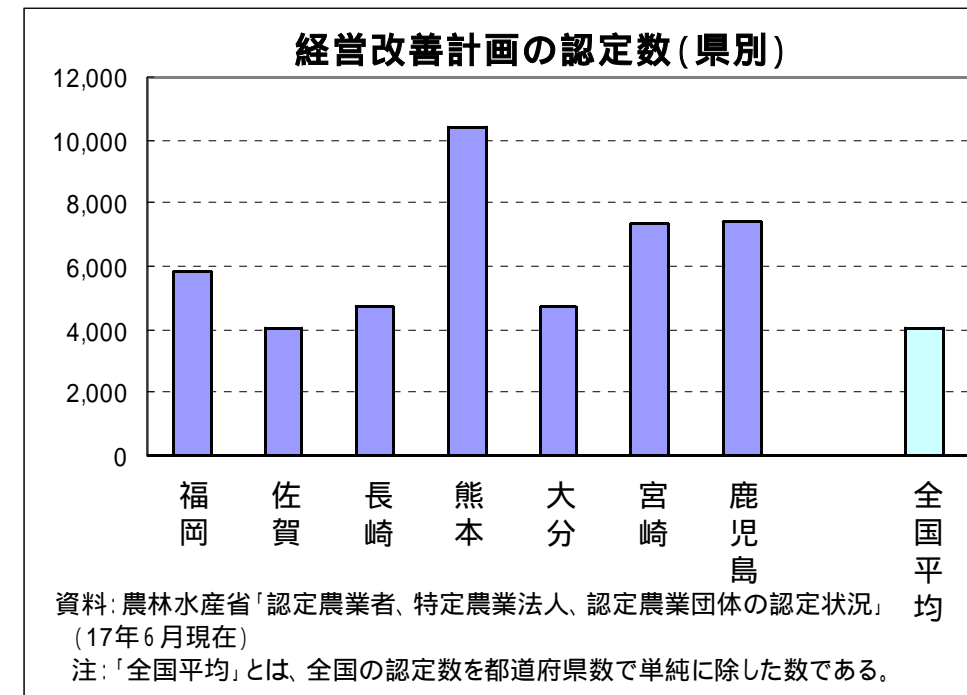
1 担い手の状況

九州地域における17年6月末現在の農業経営改善計画の認定数は、4万4,480（うち法人1,585）で、引き続き増加。

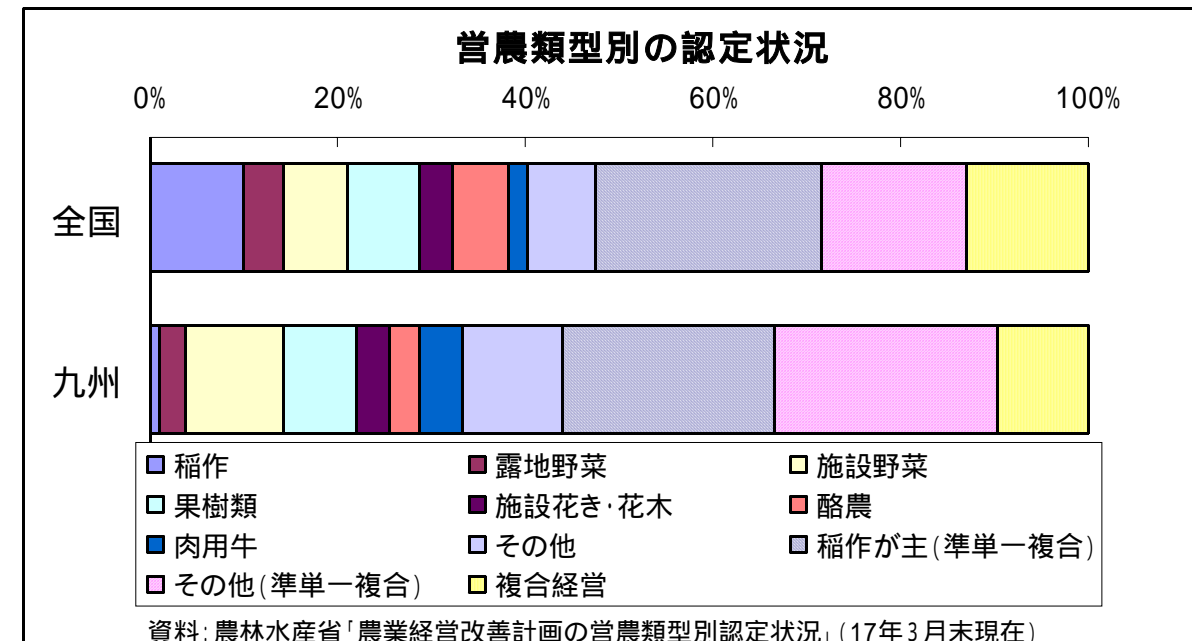
これは、全国（19万1,926）の23%を占めており（総農家数では15%）いる。



県別にみると、特に熊本県における認定数は北海道に次ぐ全国第2位で、鹿児島県（5位）、宮崎県（6位）も多い。



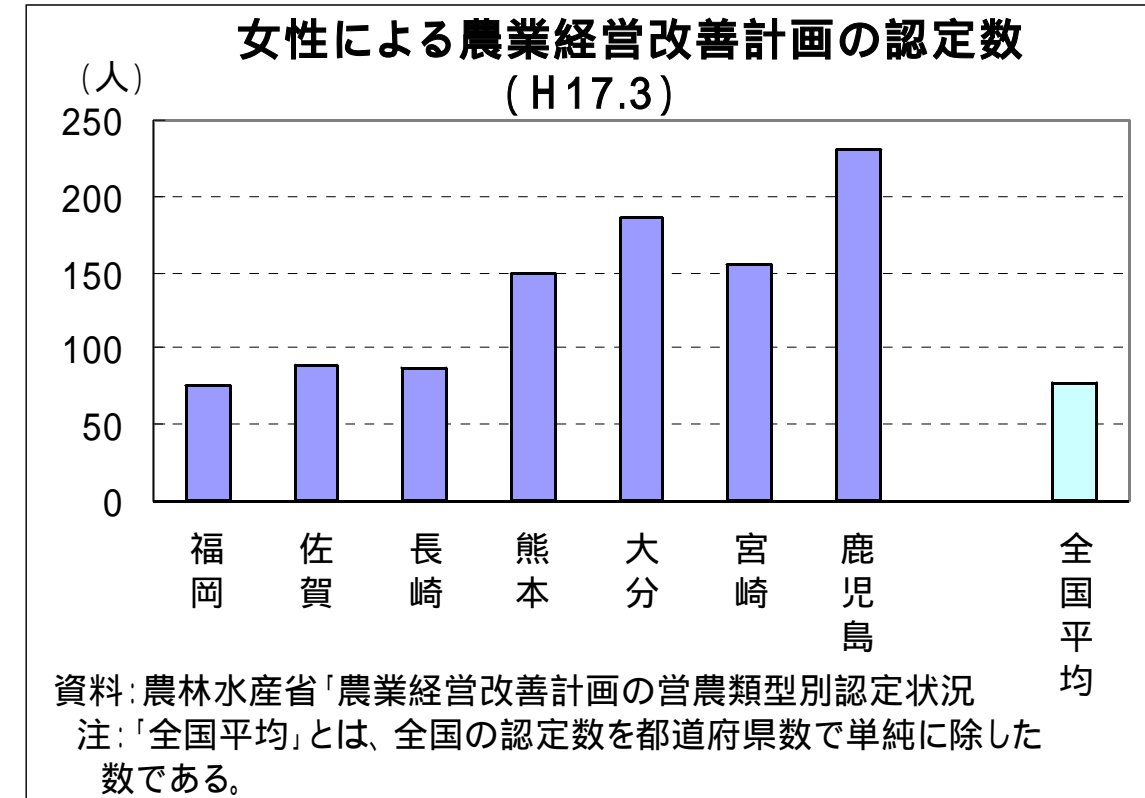
営農類型別の認定状況をみると、九州は稲作単一経営の割合が極めて低く（九州1%、全国10%）、施設野菜单一、稲作以外の準単一複合経営の割合が高くなっており、多様な農業が展開されていることが伺われる。



2 女性の活躍

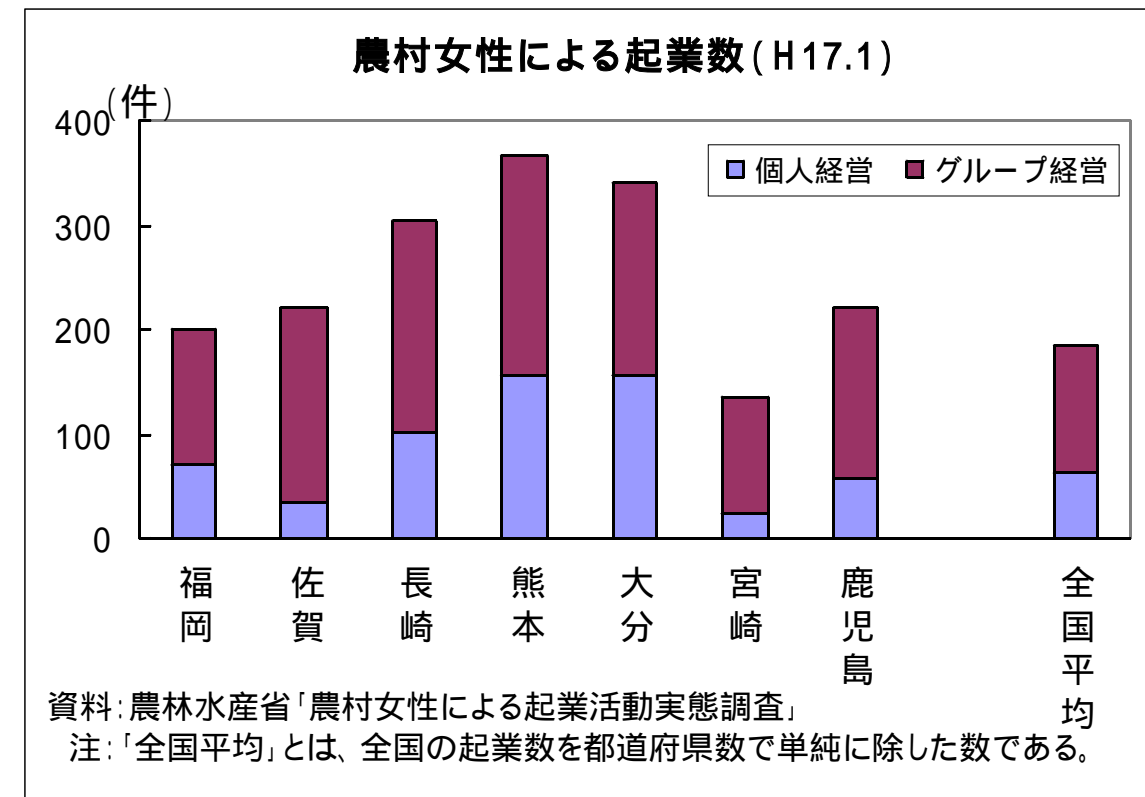
女性による農業経営改善計画認定数は 973 件で、全国（3,685 件）の約 26 % を占めており、特に鹿児島県及び大分県は、北海道、岩手県に次いで全国第 3 位、4 位となっている。

また、夫婦による共同申請は 299 件と全国（440 件）の約 68 % を占めており、ほとんどが熊本県（245 件）である。



また、農産物加工や直売所など農村女性による起業活動も盛んであり、起業数は熊本県は秋田県に次ぎ全国第 2 位、大分県は第 4 位となっている。

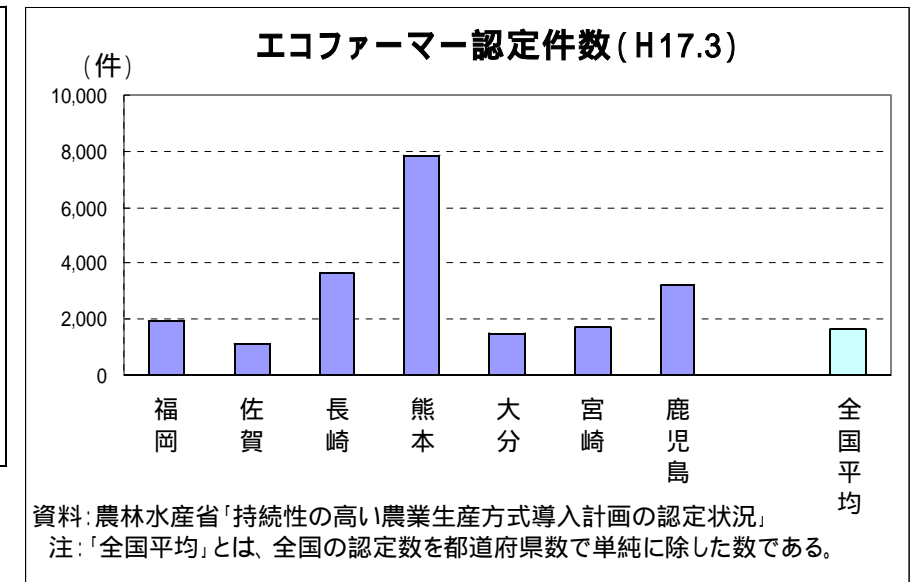
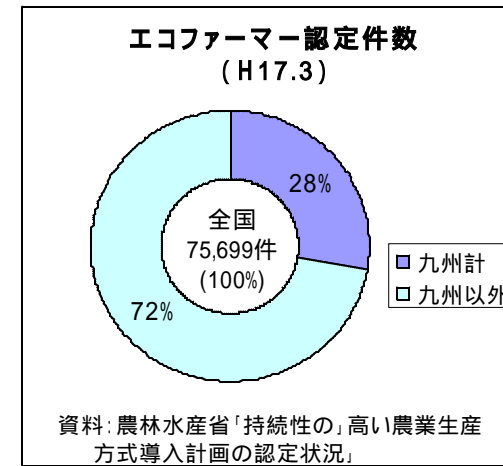
活動内容でみると、食品加工が 76.3 %、朝市などの販売・流通が 37.7 % を占めており、地域の農産物を利用した起業が多数を占めている。



3 環境に配慮した農業

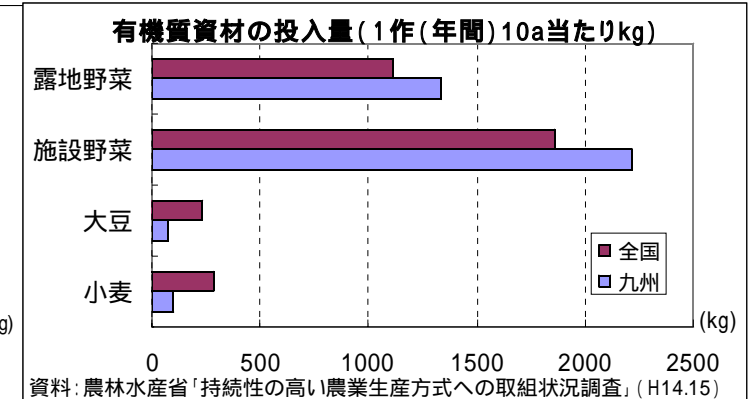
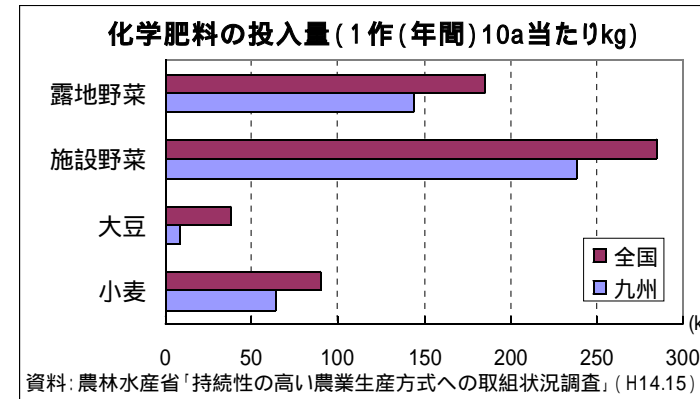
九州地域において、持続性の高い農業生産方式に関する導入計画書を策定し知事の認定を受けた「エコファーマー」の件数は 21,012 件で、全国（75,699 件）の約 28% を占めている。

特に熊本県は 7,841 件と全国第 1 位であり、長崎県や鹿児島県もかなり多い水準。



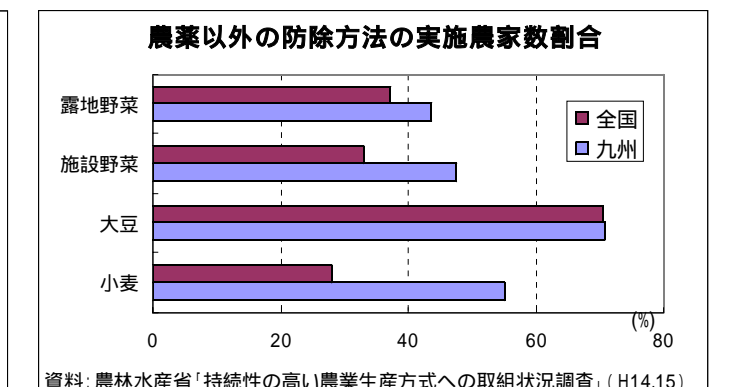
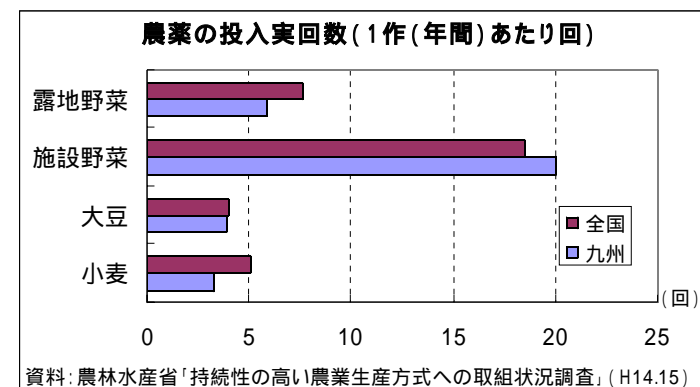
化学肥料の 1 作 10 a 当たりの投入量は、露地野菜 144kg、施設野菜 239kg 等と、いずれも全国（186kg、284kg）よりも少なくなっている。

一方、有機質資材の投入量は、露地野菜 1,333kg、施設野菜 2,214kg 等と、いずれも全国（1,111kg、1,856kg）よりも多くなっている。



農薬の 1 作当たり投入実回数は、露地野菜は 5.9 回と全国（7.6 回）よりも少なくなっているが、施設野菜では 20.0 回と全国（18.5 回）よりも多くなっている。

一方、農薬以外の防除方法（機械による防除や被覆栽培等）の実施農家割合は 43.7% と、全国（37.2%）よりも多い状況。

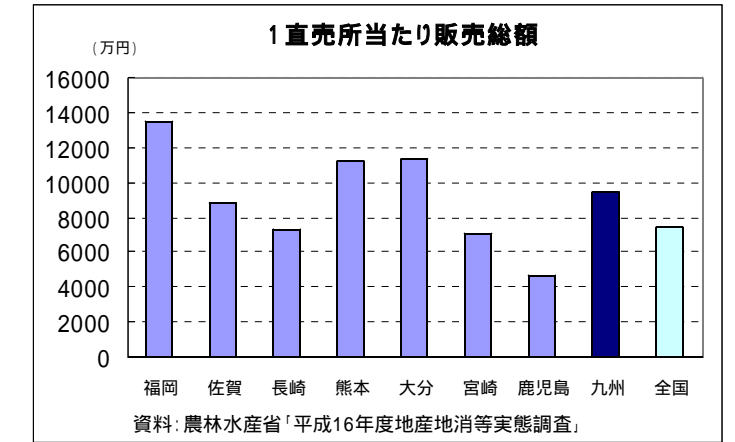
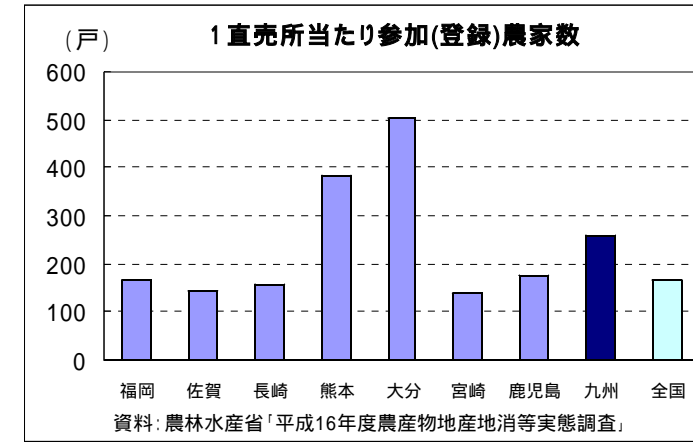


【直売所、農産加工】

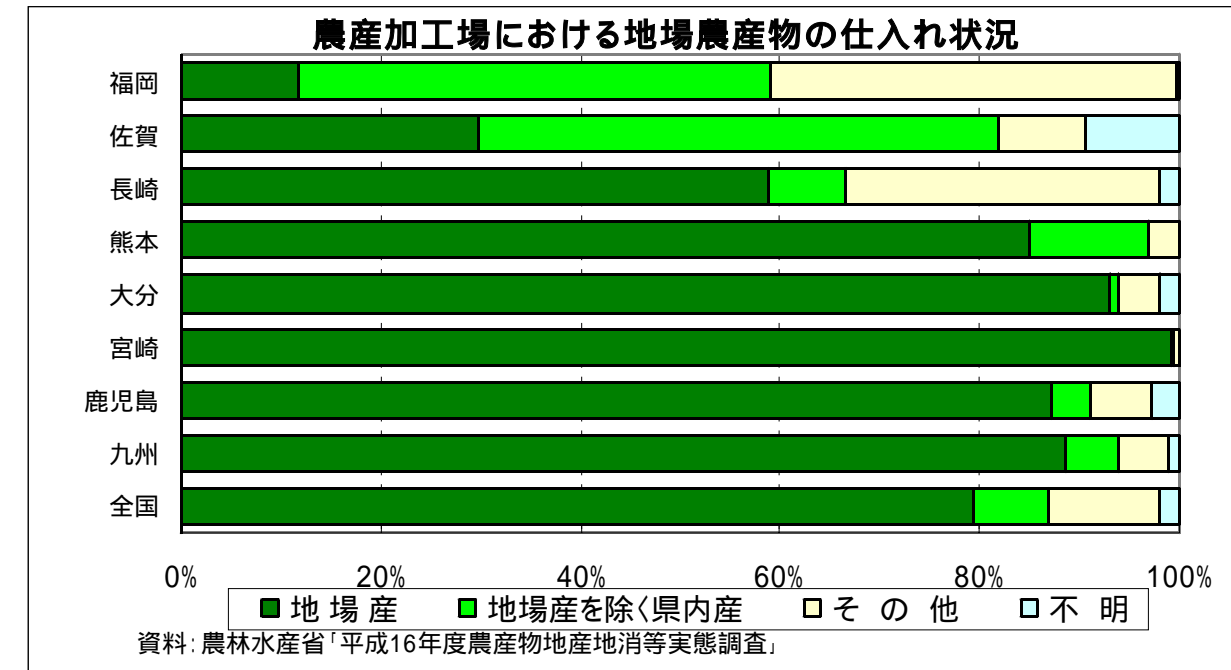
1 農産物直売所・加工場の状況

九州地域における産地直売所（市区町村又は農協が設置主体で有人で常設店舗形態の施設を保有している直売所）の平均年間販売総額は 9,429 万円で、全国（7,462 万円）よりも大きく、特に福岡県、大分県、熊本県の規模が大きい。

1 直売所当たりの参加（登録）農家数をみても、九州平均では 256 人と全国平均（167 人）を上回っており、特に大分、熊本における参加農家数が多い。



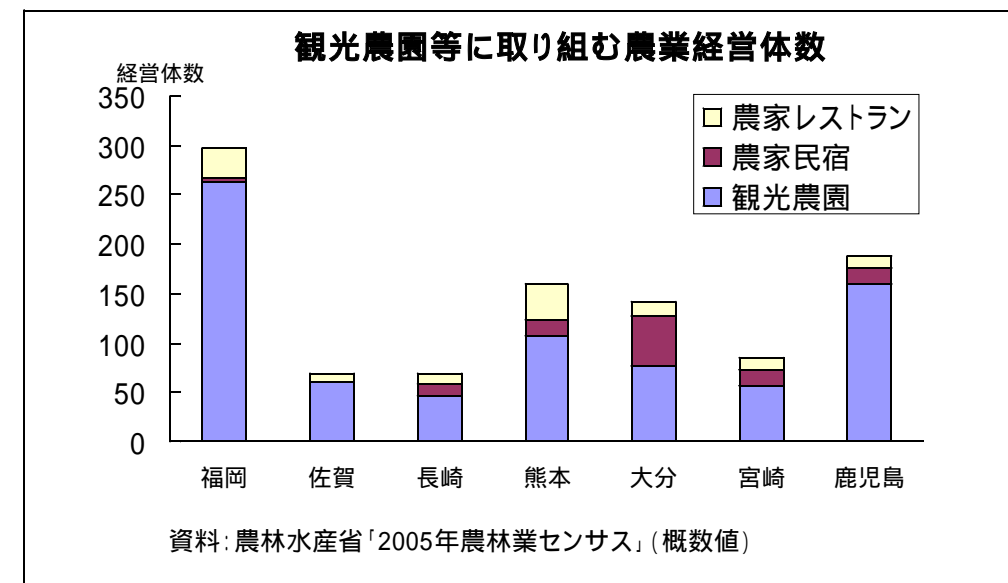
農協等が設置主体である農産物加工場における年間原料仕入れ総額は、1 加工場当たり平均で 2 億 7,397 万円で、このうち、地場農産物（農協が管轄する範囲内等）の仕入れ金額の割合は 88 % となっており、これは、全国平均値（80 %）より高くなっている。



2 観光農園等

観光農園、農家民宿、農家レストランなど農業関連事業を実施している農業経営体数は、九州全体で 1,009 事業体となっている。

県別にみると、福岡が観光農園を中心に最も多く、大分では農家民宿の取組が盛んと言った特徴がみられる。



【食育の取組】

九州の各地域においては、多様な農業が展開されていることや、食（消費地）と農（農業生産の現場）の間の距離が近いという特徴を踏まえ、学校給食への地場産物の活用や体験学習など、多様な食育の取組が行われている状況。

1 小、中学校における農業体験学習の実施

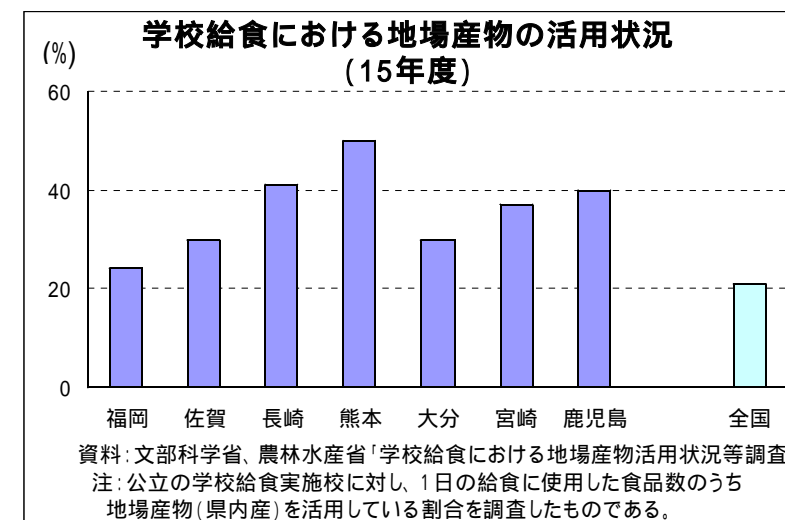
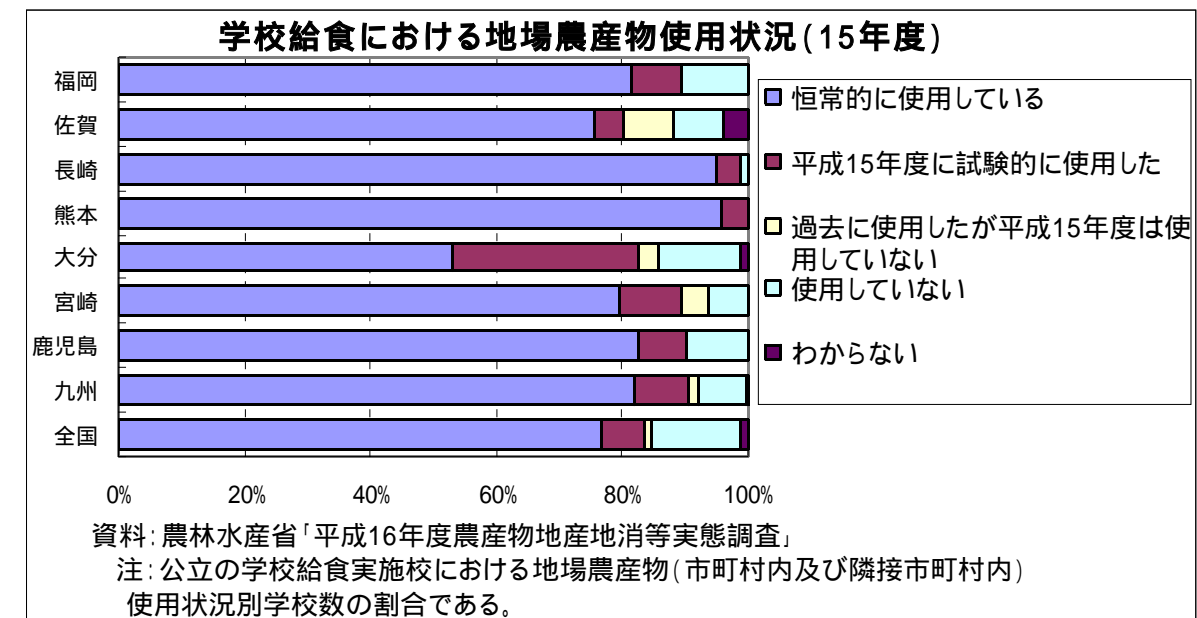
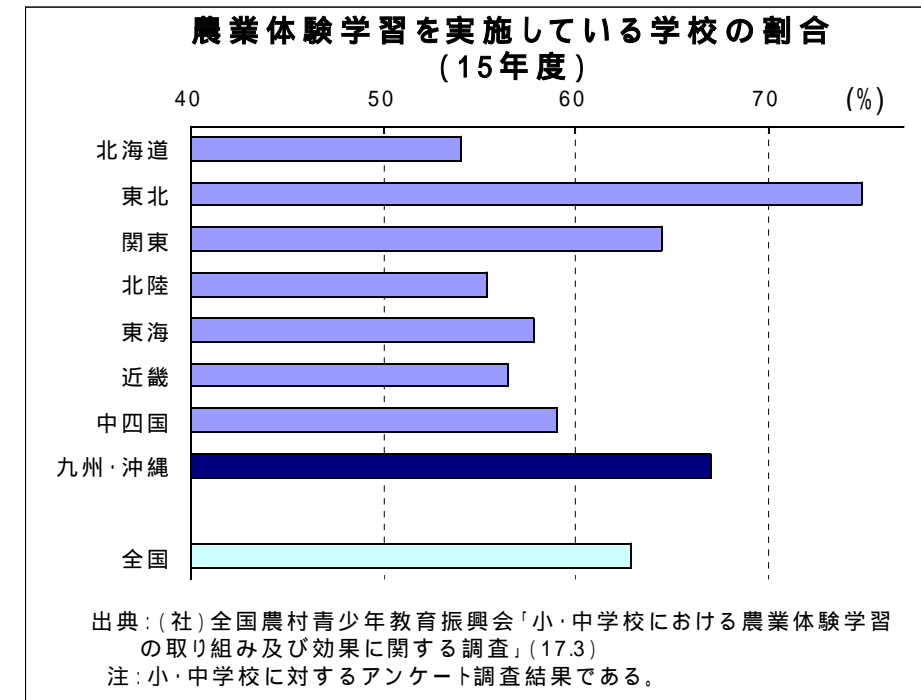
農作業や農畜産物の加工等の農業体験学習を行っている小、中学校の割合は、全国平均の63%に対し九州・沖縄地域は67%。

一方、課題・問題点（九州・沖縄地域）としては、「時間の不足」が65%と最も高く、「学校や教師の技術や知識・情報の不足」が38%、「準備に時間がかかる」が30%。

2 学校給食における地場産物の活用状況

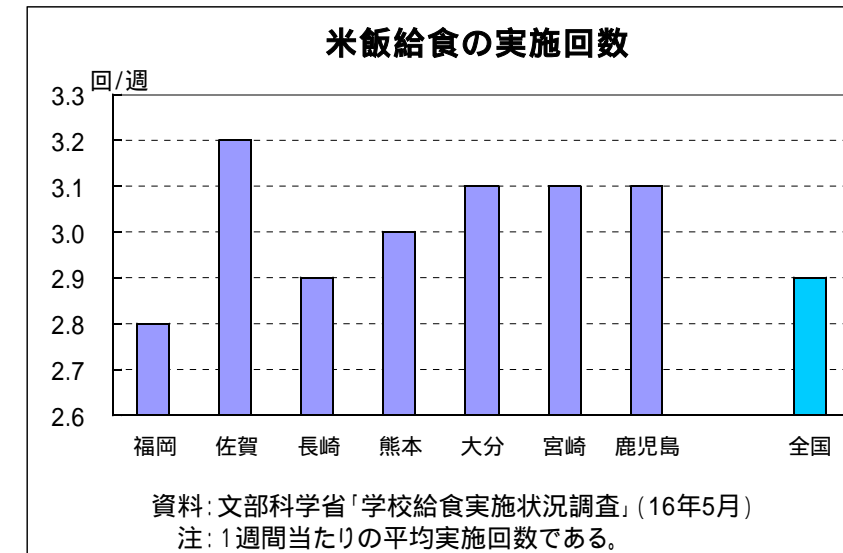
公立の小・中学校及び共同調理場において地場農産物（市町村内及び隣接市町村内）を恒常的に使用している学校の割合は、全国平均の77%に対し、九州は82%。

また、公立の学校給食実施校のうち、1日の給食に使用した食品数のうち地場産物（県内産）を活用している割合は、全国平均の21%に対し、九州各県は熊本が50%（全国1位）となっているほか、いずれも高い水準。



3 米飯給食の実施回数

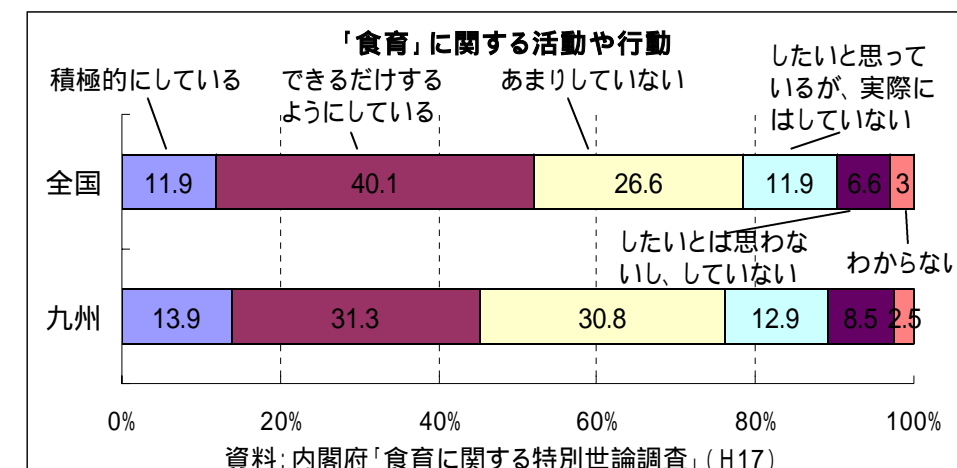
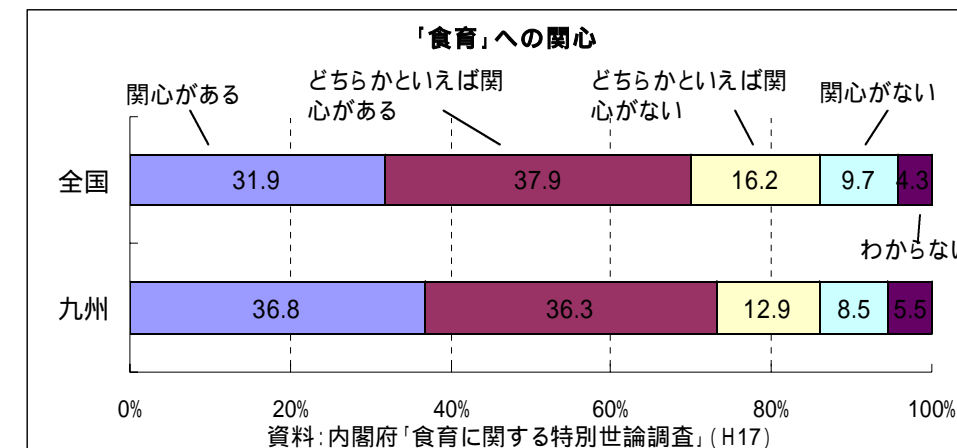
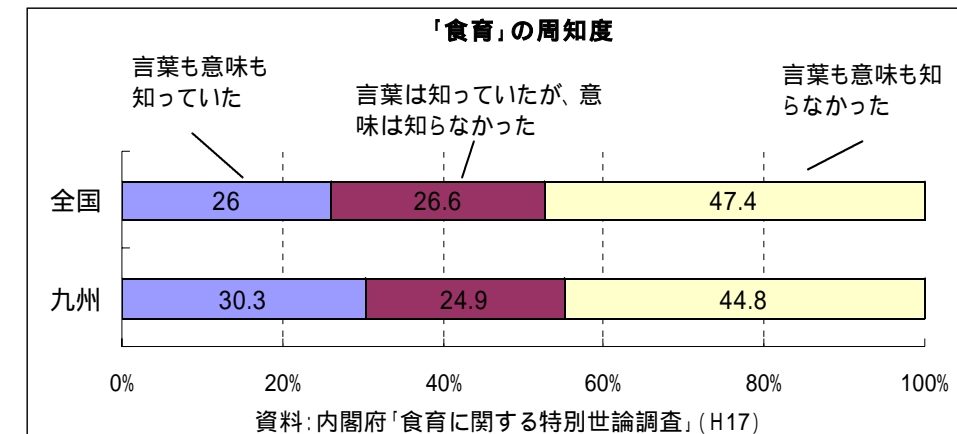
1週間当たりの米飯給食の実施回数をみると、全国平均では2.9回であるのに対し、九州では、佐賀3.2回など、福岡を除いて全国平均より多い水準。



4 食育に関する世論調査の概要

「食育に関する特別世論調査」によると、九州は、「食育の周知度」及び「食育への関心」について、全国平均より高く、さらに「食育に関する活動や行動を積極的に行っている」割合も全国平均より高い状況。

しかし、「活動や行動」を全体的に見ると、「していない」割合が52.2%と半数を超えており、全国平均より高い状況。



食の安全、食育等に関する取組実績(18年1月分)

[九州農政局]

	実施日時、場所	名称及び参加予定者(人数)	実施内容	備考(連携の状況等)	一般参加	問合せ先
1	12月15日(木)～1月16日(月) 九州農政局食糧部	小学生絵画募集 <応募対象者:熊本市内在住の小学生(但し、自ら希望があった場合は熊本市内に限らず応募対象とする)>	「おむすびの日～こんなおむすびあったらいいな～わたしのぼくの夢のおむすび」をテーマにした絵画を募集			食糧部食糧調整課
2	1月4日(水)～1月31日(火) 9:00～17:00 福岡市消費生活センター	「1月は食を考える月間です」パネル展示 <参加者:来場者 人数未定>	食料自給率等に関するパネル展示			福岡統計・情報センター
3	1月4日(水)～1月31日(火) 9:00～17:00 福岡市・博多市民センター	「1月は食を考える月間です」パネル展示 <参加者:来場者 人数未定>	食料自給率等に関するパネル展示			福岡統計・情報センター
4	1月4日(水)～1月31日(火) 10:00～18:00 瀬高町立図書館	『いちばん身近な「食べもの」の話』等パネル展示 <参加者:来場者 人数未定>	パネル展示			福岡統計・情報センター
5	1月5日(木)・13:00～13:30 曾於家畜市場	牛個体識別全国データベース修正請求書の受付手続き変更の周知 <応募対象者:管内農協担当者、市町村担当者>	牛個体識別全国データベース修正請求書の受付手続き変更の周知	* 曾於郡肉用牛振興協議会主催		福岡農政事務所
6	1月5日(木)～31日(火) 10:00～21:00 飯塚市市民交流プラザ	「1月は食を考える月間です」パネル展示 <参加者:来場者 人数未定>	パネル展示、パンフレットの配布		可	飯塚市市民交流プラザ
7	1月8日(日)・13:00～17:00 天神イズム6階天神お米ギャラリー(福岡市)	「おにぎりのパワーと魅力について」イベント <参加者:来場者 約1,000名>	食事バランスガイドの普及・ごはん食を中心の朝ご飯の大切さについて お米相談コーナー、チラシ配布(米の消費拡大等)	* 天神お米ギャラリー主催	可	天神お米ギャラリー 092-725-4841
8	1月10日(火)～31日(火) 大分農政事務所地域1課管内	消費拡大パンフレット及び「おむすびの日」チラシ配布 <米の消費流通調査客体並びに米穀届出事業者等 48名>	消費拡大パンフレット及び「おむすびの日」チラシ配布			大分農政事務所

	実施日時、場所	名称及び参加予定者(人数)	実施内容	備考(連携の状況等)	一般参加	問合せ先
9	1月11日(水)・9:30~10:30 山鹿市健康福祉センター	出前講座「山鹿市ヘルスマイト研修」 <参加者: 山鹿市食改ヘルスマイト 25名>	食の安全・安心に関する講話、地産地消に関する講話	* 山鹿市 * 消費・安全部地域第四課と菊池統計・情報センターと合同		消費・安全部消費生活課 総務部情報推進課
10	1月11日(水)・14:00~16:00 クリエイト篠栗(篠栗町)	農業についての意見交換会 <参加者: 篠栗消費者の会、福岡県病害虫防除所等 22名>	農業に関する基調講演 粕屋農協における安心・安全農産物の取組報告 農政事務所の取組報告 意見交換会	* 福岡県病害虫防除所、粕屋農業協同組合		福岡農政事務所
11	1月13日(金)・9:30~11:30 菊池保健所	平成17年度市町在宅栄養士研修会 <参加者: 市町・在宅栄養士 10名>	「食事バランスガイドの活用と普及について」 講話 「食事バランスガイドの効果的な活用について」意見交換	* 菊池保健所主催		消費・安全部消費生活課
12	1月13日(金)・13:30~16:00 アバンセホール	食育推進公開サミット <参加者: 栄養士関係、医療関係、学校関係、消費者グループ等 300名>	基調講演「子供の頃からの楽しい食教育の実践」 知事と市長による食育推進公開サミット「地域作りと食育」	* 佐賀県主催 * 佐賀農政事務所後援	可	佐賀農政事務所
13	1月16日(月)・10:00~11:30 佐賀市立赤松公民館集会室 1.2	出前講座「自給率及び食品表示について」 <参加者: 赤松大学生 21名>	食品表示について 食料自給率について	* 佐賀市立赤松公民館主催		佐賀農政事務所
14	1月16日(月)・10:00~12:00 臼杵中央公民館	意見交換会「食の安全・安心について」 <参加者: 臼杵生活学校会員等 30名>	牛肉の安全性の確保について 鳥インフルエンザの現状について	* 臼杵市生活学校主催		大分農政事務所
15	1月16日(月)~1月31日(火) 8:30~17:00 福岡合同庁舎	「1月は食を考える月間です」パネル展示 <参加者: 来場者 人数未定>	食料自給率等に関するパネル展示			福岡統計・情報センター
16	1月16日(月)~20日(金) 8:30~17:00 大分県庁1階ロビ	米の消費拡大・食料自給率向上に関するパネル展示 参加者: 来庁者 人員未定	米の消費拡大・食料自給率向上に関するパネル展示			大分農政事務所
17	1月16日(月)~20日(金) 8:30~17:00 大分農政事務所地域第二課	消費拡大関係パネル展示 <来場者 約50名>	実施期間中鑑定会等実施され多くに来庁者があり、ごはん食の健康性とごはんを中心とした日本型食生活の良さを啓発。		可	大分農政事務所
18	1月16日(月)~23日(月) 時間未定 JUSCO八代店	インフォメーション 参加者: 来店者 人数未定	食事バランスガイドの普及、食料自給率向上をテーマにパネルの展示とパンフレットの配布	* 消費・安全部地域第二課と八代統計・情報センターと合同		消費・安全部消費生活課 総務部情報推進課

	実施日時、場所	名称及び参加予定者(人数)	実施内容	備考(連携の状況等)	一般参加	問合せ先
19	1月17日(火) 九州農政局食糧部	おむすびランチの日	全職員で一斉に「昼食をおむすび」とする取組の実施 職員に対し「おむすびの日」「食を考える月間」等に関する情報を提供し、取組の普及・啓発に努める			食糧部食糧調整課
20	1月17日(火)・12:00～12:30 消費・安全部地域第三課内	「おむすびの日」昼食会 参加者:職員 21名	「食を考える月間」「おむすびの日」の職員及び関係機関・団体への普及・啓発 おむすび・おにぎりをセルフで作り、食べられることへ感謝し、職員の親睦を図った。			消費・安全部消費生活課
21	1月17日(火)・10:30～12:30 川副町立川副小学校家庭科室	出前講座「手もみもちを作ろう！」 参加者:小学5年生 49名	講座 もち米について うるち米ともち米のちがいについて 体験学習 手もみもちを作ろう うるち米ともち米の判別について			佐賀農政事務所
22	1月17日(火) 大分農政事務所	おむすびランチの日	全職員で一斉に「昼食をおむすび」とする取組の実施 職員に対し「おむすびの日」「食を考える月間」等に関する情報を提供し、取組の普及・啓発に努める			大分農政事務所
23	1月17日(火)・13:30～16:00 佐伯市役所	意見交換会「食の安全・安心について」 <参加者:臼杵市消費生活研究会会員 30名>	牛肉の安全性の確保について 鳥インフルエンザの現状について			大分農政事務所
24	1月17日(火)・9:35～11:20 都城市立長飯小学校体育館	出前講座「お米の学習」 参加者:小学5年生 117名、教諭 3名	お米の歴史、お米の種類、お米の栄養、お米を使った料理、お米を使った加工品、お米の流通(実演を含む)			宮崎農政事務所
25	1月17日(火)・13:00～16:20 かごしま県民交流センター-中ホール	平成17年度食品表示地域フォーラムinかごしま 参加者:一般募集者 約250名	行政担当者、消費者、生産者、事業者が、信頼される食品表示に向けた取組課題について意見交換	*九州農政局、鹿児島農政事務所、厚生労働省等主催	可 募集終了	鹿児島農政事務所
26	1月17日(火)～27日(金) 9:00～17:00 大分県消費生活・男女共同参画プラザ アイネス	「食を考える月間」パネル展示 参加者:来庁者 人員未定	食事バランスガイド・牛肉のトレーサビリティ・品質表示基準の概要・アレルギー関係食品表示・米の表示・特別栽培のガイドライン・食を考える月間ポスター			大分農政事務所
27	1月17日(火)～27日(金) 9:00～21:00 ライフパル 大分市市民活動・消費生活センター	「食を考える月間」ポスター展示 参加者:来館者 人員未定	食事バランスガイド・食を考える月間ポスター			大分農政事務所

	実施日時、場所	名称及び参加予定者(人数)	実施内容	備考(連携の状況等)	一般参加	問合せ先
28	1月17日(火)~29日(日) 9:00~17:00 宮崎県立図書館	「食を考える月間」パネル展示 参加者:来館者 人員未定	パネル展示外 1/17「おむすびの日」は幼稚園児・保護者へ食事バランスガイドの説明・おにぎり作り・焼きたて米粉パン試食等を行った	* 宮崎農政事務所と宮崎統計・情報センタ - と合同		宮崎農政事務所
29	1月18日(水)・13:30~16:10 パビオン24 ガスホ - ル(福岡市)	平成17年度大豆フォーラム 参加者:一般募集 500名	基調講演(城田知子氏) 事例紹介 展示・試食等	* 大豆需給確立推進九州地域検討会、全国農業普及支援協会、九州農政局	可	生産経営流通部 農産課
30	1月18日(水)・14:00~15:00 長崎市鉄橋	「食を考える月間」街頭キャンペーン 参加者:一般消費者等 300名	食事バランスガイド・米消費拡大関連パンフレット配布			長崎農政事務所
31	1月19日(木)・13:00~13:20 福岡県酪農協同組合(福岡市)	福岡酪農協同組合全体集会 参加者:組合員及び関係者 20名	牛トレ - サビリティ生産段階における変更内容等について	* 福岡酪農協同組合主催		福岡農政事務所
32	1月19日(木)・13:00~16:00 JA筑前あさくら元気プラザ(甘木市)	JA筑前あさくらAコ - プ職員研修会「畜産物及び農産物に関する表示について」 参加者:Aコ - プ各店青果・精肉担当者等 80名	最近のJAS法の情報及び監視業務 JAS規格及び品質表示基準 牛トレ - サビリティ	* 株式会社Aコ - プ九州主催		福岡農政事務所
33	1月19日(木)・9:30~12:00 横田 宅	出前講座「食を巡る動向等について」 参加者:消費者 6名	九州地域の「食」と「農」の姿 食事バランスガイドの説明			大分農政事務所
34	1月19日(木)・13:35~15:20 南さつま市立玉林小学校家庭科室、理科室	親子食育「作って食べて楽しむごはん食!」 参加者:小学校5年生10名、保護者等 9名	調理実習、クイズでごはんについて考えよう!、意見交換会	* 南さつま市立玉林小学校、JAN南さつま、鹿児島農政事務所主催		鹿児島農政事務所
35	1月20日(金)・13:00~16:00 日田市中央公民館	消費者との意見交換及び魚料理教室 参加者:消費者等 35名	日田市民生協の歴史、流通業界を取り巻く現状と課題、現在取り組んでいること。	* 日田市役所と大分農政事務所地域第三課との共催 * 大分農政事務所地域第三課と日田統計・情報センタ - と合同		大分農政事務所
36	1月23日(月)・10:00~12:30 地域交流館「市民塾ホ - ル」 (熊本機能病院新館2F)	食を考える週間セミナー 参加者:一般市民等 60名	講話 「医療と食育」 「生活習慣病と食事」 九州農政局インフォメ - ション(パネル展示、パンフレット配布) 農産物直売(地域交流市)	* 地域交流館(熊本機能病院)共催 * 熊本市・熊本市食育推進ネットワーク連絡会・栄養士会熊本支部・熊本市食生活改善推進協議会・健康くまもと21・くまもと市民食農応援団・農産物直売所・ふるさとネットワークくまもと・食と農を考える熊本の後援	可	消費・安全部消費生活課
37	1月23日(月)~30(月) 9:00~18:00 八代市立図書館	インフォメ - ション 参加者:来館者 人数未定	食事バランスガイドの普及、食料自給率向上をテーマにパネルの展示とパンフレットの配布	* 消費・安全部地域第二課と八代統計・情報センタ - と合同		消費・安全部消費生活課 総務部情報推進課
38	1月23日(月)・10:45~12:25 日田市中央公民館	出前講座 参加者:消費者等 17名	BSEについて、世界のBSE発生状況、BSEを巡る経緯	* 大分県生活学校日田支部主催		大分農政事務所
39	1月23日(月) 安心院町公民館	安心院町営農組合集落説明会 <参加者:52名>	消費拡大関係パンフ及び「おむすびの日」普及・啓発チラシ配布	大分農政事務所地域第一課・宇佐統計・情報センタ - と合同		大分農政事務所

	実施日時、場所	名称及び参加予定者(人数)	実施内容	備考(連携の状況等)	一般参加	問合せ先
40	1月24日(火)・10:00～12:00 地域交流館「市民塾ホ－ル」 (熊本機能病院新館2F)	食を考える週間セミナー 参加者:一般市民等 40名	講話 「食生活からみた食料事情」 「日本版フードガイド(食事バランスガイド)について」 九州農政局インフォメ－ション(パネル展示、パンフレット配布) 農産物直売(地域交流市)	* 地域交流館(熊本機能病院)共催 * 熊本市・熊本市食育推進ネットワーク連絡会・栄養士会熊本支部・熊本市食生活改善推進協議会・健康くまもと21・くまもと市民食農応援団・農産物直売所・ふるさとネットワークくまもと・食と農を考える熊本の会後援	可	消費・安全部消費生活課
41	1月24日(火)・14:00～15:00 熊本市国際交流会館 7階ホ－ル	食品表示について 参加者:食品衛生責任者 140名	JAS法に基づく食品表示について	* 熊本市食品衛生協会、熊本市保健所主催		消費・安全部消費生活課
42	1月24日(火)・10:45～12:25 植木町立植木小学校パソコン室及び教室	出前講座「食生活指針の普及」 参加者:小学5年生 58名、教諭 2名	朝ごはんの重要性、日本型食生活の励行 お米の食べ比べ	* 植木町立植木小学校主催 * 消費・安全部地域第四課と菊池統計・情報センタ－と合同		消費・安全部消費生活課 総務部情報推進課
43	1月24日(火)・9:30～12:00 久留米え－るピア(調理室)	ホロ－学習会 参加者:会員 40名	米粉パン調理教室 食事バランスガイドの基本的な考え方	* 株式会社Aコ－プ九州主催		福岡農政事務所
44	1月24日(火)・14:00～15:30 鳥栖市立鳥栖北小学校体育館	出前講座「お米のなぜなぜ!？」 参加者:小学校5年生 130名	講座 お米の歴史について お米の種類について 田んぼの役割について 体験学習 もみすり、精米、水分測定、世界のお米の展示、食べ比べコ－ナ－	* 佐賀農政事務所と佐賀統計・情報センタ－と合同		佐賀農政事務所
45	1月24日(火)・13:30～16:30 長崎農政事務所1階会議室	顔の見える関係づくり懇談会 参加者:消費者、生産者、食品事業者等 約22名	地産地消について 環境保全型農業について 長崎市の地産地消について	* 長崎農政事務所主催 * JA長崎せいひ、長崎市地産地消課と連携		長崎農政事務所
46	1月24日(火)・14:10～14:55 宮崎市立東大宮小学校体育館	出前講座「食料について」 参加者:小学校5年生 123名、教諭 4名	日本の自給率、輸入量、今後の農業について説明			宮崎農政事務所
47	1月24日(火)・14:50～15:20 肝属町立岸良小学校理科室	学校保健委員会 参加者:保護者 18名、教諭 7名	食事バランスガイド策定に至る経緯 食事バランスガイドについて 質問の時間			鹿児島農政事務所

	実施日時、場所	名称及び参加予定者(人数)	実施内容	備考(連携の状況等)	一般参加	問合せ先
48	1月25日(水)・10:00～12:00 地域交流館「市民塾ホ-ル」 (熊本機能病院新館2F)	食を考える週間セミナー 参加者: 一般市民等 40名	講話 「鳥インフルエンザについて」 「知っておきたい食品表示」 九州農政局インフォメ-ション(パネル展示、パンフレット配布) 農産物直売(地域交流市)	* 地域交流館(熊本機能病院)共催 * 熊本市・熊本市食育推進ネット-ワーク連絡会・栄養士会熊本支部・熊本市食生活改善推進協議会・健康くまもと21・くまもと市民食農応援団・農産物直売所・ふるさとネット-ワークくまもと・食と農を考える熊本の会後援	可	消費・安全部消費生活課
49	1月25日(水)・10:15～12:40 菊池市立花房小学校家庭科室	出前講座「食生活指針の普及」 参加者: 小学5年生 19名、教諭 1名	朝ごはんの重要性、日本型食生活の励行 お米の食べ比べ	* 菊池市立花房小学校主催 * 消費・安全部地域第四課と菊池統計・情報センタ-と合同		消費・安全部消費生活課 総務部情報推進課
50	1月25日(水)・13:30～16:00 福岡農政事務所地域第二課(久留米市)	「食の安全・安心について」意見交換会 参加者: 消費者、生産者等 26名	直売所の現状について 農薬の役割と安全性について 食品表示について 意見交換			福岡農政事務所
51	1月25日(水)・13:30～16:00 佐賀市ほほえみ館4階視聴覚室	「食を考える月間」意見交換会 参加者: 佐賀市食生活改善推進協議会会員 40名	「食事バランスガイド」の説明及び意見交換会	* 佐賀農政事務所主催 * 佐賀市保健福祉部長寿健康課と共催		佐賀農政事務所
52	1月25日(水)・10:00～11:00 宮崎市内 吉住中央保育園保育室	出前講座「ごはんをしっかりとべましょう」 参加者: 保育園児 4～5歳児 約23名、保育士 5名	ビデオ鑑賞、紙芝居、カ-ド釣りゲ-ム、手揉みもち作成			宮崎農政事務所
53	1月25日(水)・15:25～16:15 肝属町立岸良中学校多目的ホ-ル	出前講座「食事バランスガイドと食料自給率・食品ロスについて」 参加者: 中学1～3年生等 14名	食事バランスガイドについて 食料自給率と食品ロスについて 質問の時間	* 鹿児島農政事務所と鹿児島統計・情報センタ-と合同		鹿児島農政事務所
54	1月26日(木)・10:00～12:00 地域交流館「市民塾ホ-ル」 (熊本機能病院新館2F)	食を考える週間セミナー 参加者: 一般市民等 80名	講話 「お米の生産から食卓まで」 食育劇 「エプロンシアタ-」 講話 「朝ごはんの大切さ」 食育劇 「健くまシアタ-」 九州農政局インフォメ-ション(パネル展示、パンフレット配布) 農産物直売(地域交流市)	* 地域交流館(熊本機能病院)共催 * 熊本市・熊本市食育推進ネット-ワーク連絡会・栄養士会熊本支部・熊本市食生活改善推進協議会・健康くまもと21・くまもと市民食農応援団・農産物直売所・ふるさとネット-ワークくまもと・食と農を考える熊本の会後援	可	消費・安全部消費生活課

	実施日時、場所	名称及び参加予定者(人数)	実施内容	備考(連携の状況等)	一般参加	問合せ先
55	1月26日(木)・13:30～16:30 博多パ-クホテル(福岡市)	食に関する意見交換会「食卓と結ぶ都市と農村の共存」 参加者:消費者等 85名	テ-マ「食卓を結ぶ都市と農村の共存」基調講演、九州のムラ編集長 養父信夫 福岡県立久留米筑水高等学校教諭 牟田口光美(調理実習、地域での取組発表) 意見交換会	*福岡農政事務所主催 *福岡県、福岡市、福岡県消費者協会、福岡県地域婦人会連絡協議会、福岡県生活協同組合連合会、JA福岡中央会、JA全農ふくれん福岡県本部、福岡県農業振興推進機構、西日本新聞社	可	福岡農政事務所 消費生活課 092-281-8261
56	1月26日(木)・13:30～16:00 松浦市文化ホ-ル	顔の見える関係づくり懇談会 参加者:消費者、生産・流通(直売所等)、市町村等 33名	食の安全について 食品表示、食事バランスガイド、平成16年度農産物産地消実態調査結果概要について	*県北農業改良普及センター、JANAがさき西海、松浦市等連携 *長崎農政事務所と長崎統計・情報センターと合同		長崎農政事務所
57	1月26日(木)・13:30～16:00 大分農政事務所第5会議室	食を考える意見交換会 参加者:消費者、栄養士、生産者、高校生等 44名	「食を考える月間」にちなみ、「食」についてそれぞれの立場から、意見交換を行った。 健康的で栄養バランスのとれた食生活 安全な農産物の生産に向けた取組	*大分農政事務所主催 *大分栄養士会、JA大分市営農部野菜園芸課と連携		大分農政事務所
58	1月26日(木)・13:20～14:00 鹿屋市立南小学校多目的ホ-ル	学校保健委員会 参加者:保護者 9名、教諭 4名	食事バランスガイド策定に至る経緯 食事バランスガイドについて 質問の時間			鹿児島農政事務所
59	1月26日(木) 安心院町公民館	安心院町営農組合集落説明会 <参加者:52名>	消費拡大関係パンフ及び「おむすびの日」普及・啓発チラシ配布	大分農政事務所地域第一課・宇佐統計・情報センターと合同		大分農政事務所
60	1月27日(金)・10:00～12:15 地域交流館「市民塾ホ-ル」 (熊本機能病院新館2F)	食を考える週間セミナー 参加者:医療・教育機関、生産者、消費者、流通業者等 60名	意見交換会 テ-マ「食と健康」 (フリ-ト-ク式による意見交換) 九州農政局インフォメ-ション(パネル展示、パンフレット配布) 農産物直売(地域交流市)	*地域交流館(熊本機能病院)共催 *熊本市、熊本市食育推進ネット-ワーク連絡会、栄養士会熊本支部、熊本市食生活改善推進協議会、健康くまもと21・くまもと市民食農応援団、農産物直売所・ふるさとネット-ワークくまもと・食と農を考える熊本の会後援	可	消費・安全部 消費生活課
61	1月27日(金)・13:30～15:20 八女市立上妻保育所	上妻保育所 親子クッキング 参加者:保育園年長 32名、保護者等 41名	調理の説明 調理実習 食育について 食事バランスガイドの説明	*八女市役所健康課主催		福岡農政事務所
62	1月27日(金)・13:30～15:20 みやき町立中原中学校 大教室	出前講座「日本の食料について」 参加者:中学1年生 37名	講座 食料自給率について 体験学習 もみすり、精米、水分測定、世界のお米の展示、食べ比べコ-ナ-	*佐賀農政事務所と佐賀統計・情報センターと合同		佐賀農政事務所
63	1月27日(金)・13:00～16:30 諫早文化会館	「ごはんを食べよう」推進フォーラム 参加者:消費者団体、栄養士会、米流通業者等約350名	講演「私たちの食生活と健康を考える」 パネルディスカッション「水田の持つ多面的機能とごはん食のすすめ」	*長崎県、長崎県米消費拡大推進協議会、諫早市、ごはんを食べよう国民運動推進協議会主催	可	諫早市農業振興課 0957-22-1500

	実施日時、場所	名称及び参加予定者(人数)	実施内容	備考(連携の状況等)	一般参加	問合せ先
64	1月27日(金)・10:00～13:00 佐世保市島瀬公園	「食を考える月間」地産地消等推進活動 参加者:一般消費者等 400名	ポスタ-展示・パンフレット配布・アンケート実施等	*長崎県北振興局主催		長崎農政事務所
65	1月27日(金)・9:30～11:35 日南市立吾田小学校視聴覚室	出前講座「日南市の水産業、農業と食べ物の話」 参加者:小学校5年生 88名、教諭 3名	1.魚の種類、日南市の漁獲量、漁法紹介 2.日本の農業、世界の農業、農業の歴史、輸入と自給率、食事バランスガイドの説明			宮崎農政事務所
66	1月28日(土)・13:00～16:30 熊本市総合体育館青年会館青年会館ホ-ル	「食を考える月間」シンポジウム 親子で食育!-たべものさん、ありがとう- 参加者:一般募集 300名	生野菜人形劇講演 ト-クショウ(山下惣一氏、佐藤弘氏) 事例発表、体験コ-ナ-	*食を考える国民会議、九州農政局、くまもと食の安全県民会議、熊本県、熊本市、熊本市食育推進ネットワーク連絡会、くまもと食・農・健康を創る会主催	可	消費・安全部消費生活課 096-353-7589
67	1月28日(土)・12:00～15:00 宮崎県立図書館	講演会 参加者:人数未定	「心とからだを育む食」をテ-マに講演会 食に関する情報提供		可	宮崎統計・情報センター
68	1月29日(日)・9:00～13:30 さんば-る駐車場(上天草市)	天草四郎ふるさと物産まつり 参加者:来場者 人数未定	食育月間のピーア-ル、食事バランスガイドの普及、食料自給率向上、米の消費拡大をテ-マにパネルの展示とパンフレットの配布、クイズ・アンケートの実施	*天草四郎ふるさと物産まつり実行委員会主催、消費・安全部地域第二課と本渡統計・情報センターと合同参加	可	総務部情報推進課
69	1月29日(日)・11:00～16:30 熊本県立大学	平成17年度くまもと食の安全安心フォーラム 参加者:一般募集 人数未定	基調講演(坂本元子氏) ランチョンセミナー パネルディスカッション	*くまもと食の安全県民会議主催	可	熊本県 食の安全・消費生活課 096-383-2767
70	1月29日(日)・9:00～12:00 JAくるめ本所調理室	米粉パン作り体験 参加者:一般消費者、子供等 19名	米粉パン調理教室 食育に関するお話し 意見交換	*JAくるめ ベジフル探検隊事務局主催		福岡農政事務所
71	1月31日(火)・9:30～13:00 人吉市東西コミュニティセンター(人吉市)	「平成17年度第2回食生活改善推進委員リ-ダ-研修会」 参加者:会員、事務局、保健所 45名	「食を考える月間」の取組みとして、「インフォメ-ション」:食事バランスガイド・食料自給率に関するパネル展示及びパンフレット等の配布を行った。 人吉保健所の担当者より、「食事バランスガイド」の活用についての講話、食事バランスを考えた調理実習を行った。	*人吉保健所との連携 *消費・安全部地域第三課と人吉統計・情報センターと合同		消費・安全部消費生活課
72	1月31日(火)・13:30～15:20 みやき町立中原中学校 大教室	出前講座「日本の食料について」 参加者:中学1年生 38名	講座 食料自給率について 体験学習 もみすり、精米、水分測定、世界のお米の展示、食べ比べコ-ナ-	*佐賀農政事務所と佐賀統計・情報センターと合同		佐賀農政事務所
73	1月31日(火)・8:30～12:15 唐津市立浜崎小学校体育館	出前講座「わら縄リ-ス作り」 参加者:小学5年生 100名	学習田で育てた稲のワラで縄をな-って、飾り付けてリ-ス作りを児童の祖父母の協力の下に作成した			佐賀農政事務所

	実施日時、場所	名称及び参加予定者(人数)	実施内容	備考(連携の状況等)	一般参加	問合せ先
74	1月31日(火)・14:00～16:30 島原市森岳公民館	顔の見える関係づくり懇談会 参加者:消費者、生産者、食品事業者等 19名	食事バランスガイド 統計から見た島原市の農業	*長崎農政事務所と長崎統計・情報センタ-と合同		長崎農政事務所
75	1月31日(火)・13:30～15:00 中津市役所大会議室	消費生活市民講座「食品の表示と食事バランスガイドについて」 参加者:消費生活市民講座受講生 64名	食品表示全般、食事バランスガイドについて	*中津市役所(観光商業課)主催		大分農政事務所
76	1月31日(火)・13:30～16:00 かごしま県民交流センタ-第2小研究室	食育に関する意見交換会 参加者:消費者、生産者、事業者、学校栄養士等 27名	鹿児島大学教育学部教授 神田嘉延氏による 食育に関する講演 活動事例発表 意見交換	*鹿児島農政事務所主催 *鹿児島統計・情報センタ-も出席 *県担当課、県学校給食会、大学等と連携開催		鹿児島農政事務所

食の安全、食育等に関する取組予定(18年3月分)

[九州農政局]

	実施日時、場所	名称及び参加予定者(人数)	実施内容	備考(連携の状況等)	一般参加	問合せ先
1	3月1日(水)・10:45～11:45 国東町保健センター	東国東郡食生活改善推進協議会 <参加者:食生活改善推進員 50名>	東国東郡食生活改善推進協議会の中で食生活指針・食料自給率について説明	*大分農政事務所と大分統計・情報センター - と合同		大分農政事務所
2	3月1日(水)・14:30～16:00 高千穂町保健福祉総合センター	平成17年度管内栄養士研修会 <参加者:管内栄養士 30名>	食育について	*高千穂保健所主催		宮崎農政事務所
3	3月1日(水)～31日(火) 10:00～18:00 瀬高町立図書館	パネル展示 <参加者:来館者 人数未定>	『いちばん身近な「食べもの」の話』等のパネル展示			福岡統計・情報センター
4	3月1日(水)・10:00～13:00 肝属町内小学校	出前講座 <参加者:小学3～6年生 22名>	お米の知識・食事バランス等について			鹿児島農政事務所
5	3月2日(木)・14:00～16:30 熊本市国際交流会館 国際会議室	平成17年度第2回九州地域食育推進協議会 <参加者:協議会委員、行政 50名>	九州農政局における取組状況について 各県における取組状況について 九州地域の特色を活かした食育の推進について 意見交換			消費・安全部消費生活課
6	3月2日(木)・9:00～16:00 ウイング松橋(視聴覚室)	宇城食品衛生協会: 平成17年度食品衛生責任者養成講習会 <参加者:宇城食品衛生協会会員70名>	JAS法に基づく食品表示について	*熊本県宇城保健所		消費・安全部消費生活課
7	3月2日(木)・時間未定 佐賀市久保泉公民館	佐賀市久保泉公民館女性セミナー <参加者:久保泉女性セミナー 40名>	久保泉の米と世界の米	*佐賀市久保泉公民館と連携		佐賀農政事務所
8	3月3日(金)・時間未定 三股町内小学校	出前講座 <参加者:未定>	消費・賞味期限の話	*宮崎農政事務所と宮崎統計・情報センター - と合同		宮崎農政事務所
9	3月4日(土)～4日(日) 9:00～17:00 日田市中央公民館	公民館まつり <参加者:来館者 人数未定>	食事バランスガイド・食生活指針・消費拡大等 パネル展示		可	日田市商工労政課
10	3月8日(水)・13:30～ 大牟田市文化会館	食について考える意見交換会 <参加者:60名>	食育の意見交換会	*JAみなみ筑後女性部他	可	福岡農政事務所
11	3月8日(水)・13:00～17:00 天神イズム6階天神お米ギャラリー - (福岡市)	お米何でも相談 <参加者:来場者 人数未定>	お米何でも相談コ - ナ - 設置	*天神お米ギャラリー - 主催	可	天神お米ギャラリー - 092-725-4841

	実施日時、場所	名称及び参加予定者(人数)	実施内容	備考(連携の状況等)	一般参加	問合せ先
12	3月8日(水)・10:00～16:00 鹿児島市米卸・保管業者会議室	日置地区栄養・食生活対策推進協議会研修 <参加者:栄養士 約40名>	主要食糧及び輸入飼料の安全性について説明後意見交換会			鹿児島農政事務所
13	3月9日(木)・14:00～17:00 福岡女子大学(福岡市)	「楽しんで食育(仮定)」～食育でがんばる人たち～ <参加者:福岡女子大学食育サポ-タ-他 約50名>	講師 野菜人形劇ベジタブル 代表 柴田多恵子 生野菜を使った人形劇・食育カルタ体験・食育サポ-タ-との意見交換			福岡農政事務所
14	3月9日(木)・14:10～14:55 清武町内小学校	出前講座 <参加者:小学5年生 61名、教諭 2名>	お米の歴史と生育について			宮崎農政事務所
15	3月9日(木)・13:30～15:30 鹿児島食肉センター	鹿児島県倉庫協会研修会 <参加者:約25名>	牛トレーサビリティ制度について	* 鹿児島県倉庫協会主催		鹿児島農政事務所
16	3月11日(土)・9:30～12:30 川辺町四季館	川辺地区栄養士会研修会 <参加者:栄養士 約25名>	食事バランス等について説明後意見交換会			鹿児島農政事務所
17	3月12日(日)・9:00～17:00 玖珠町メルサンホール	公民館まつり <参加者:来館者 人数未定>	食事バランスガイド・食生活指針・消費拡大等パネル展示		可	玖珠町生涯学習課
18	3月12日(日)・15:00～16:00 曾於市昭南病院	曾於郡栄養士会意見交換会 <参加者:栄養士 約20名>	食品表示について			鹿児島農政事務所
19	3月18日(土)・9:00～10:50 長崎県立農業高校	出前講座 <参加者:生活科学科 38名>	未定			長崎農政事務所
20	3月18日(土)～19日(日) JAあしきた第2選果場敷地内(芦北町佐敷)	「芦北町産業祭(デコポン祭り)」 <参加者:来場者 人数未定>	米関係・食育関係・食料自給率関係パネルの展示及びパンフレット配布	* JAあしきた主催 * 消費・安全部地域第三課と八代統計・情報センターと合同	可	消費・安全部消費生活課
21	3月22日(水)・9:30～12:00 甲佐町総合保健福祉センター	甲佐町食生活改善推進員学習会 <参加者:食生活改善推進員 約20名>	食の安全・安心<農業の安全性確保について>講座	* 甲佐町総合保健福祉センター/食生活改善推進員協議会主催		消費・安全部消費生活課
22	3月26日(日)・9:00～17:00 九重町文化センター	公民館まつり <参加者:来館者 人数未定>	食事バランスガイド・食生活指針・消費拡大等パネル展示		可	九重町生涯学習課
23	3月28日(火)・13:30～15:30 唐津市高齢者ふれあい会館「りふれ」ホール	「食事バランスガイド」説明会 <参加者:食生活改善推進協議会会員、市民等 約200名>	講師 吉浦栄子(西九州大学特任助教授) 食事バランスガイドについて説明	* 唐津市保健福祉部保健課、佐賀県唐津保健所共催	可	佐賀農政事務所

	実施日時、場所	名称及び参加予定者(人数)	実施内容	備考(連携の状況等)	一般参加	問合せ先
24	3月上旬・時間未定 菊池市内小学校	出前講座 <参加者:小学5年生 127名>	日本型食生活の普及を通じた米消費拡大、及び食生活に対する意識の向上を図る 体験型の内容として、タイ産米・アメリカ産米・地元産米の3種を食べ比べる	*消費・安全部地域第四課と菊池統計・情報センターと合同		消費・安全部消費生活課及び総務部情報推進課
25	3月上旬・時間未定 唐津市内小学校	出前講座 <参加者:小学5年生 90名>	稲作体験学習用堆肥作り	*麻生茂幸(みのり農場代表取締役)		唐津市立浜崎小学校 0955-56-6116
26	3月上旬・時間未定 唐津市内小学校	出前講座 <参加者:小学4年生 80名>	稲作体験学習用種もみ塩水選及び浸種	*麻生茂幸(みのり農場代表取締役)		唐津市立浜崎小学校 0955-56-6116
27	3月中旬・時間未定 熊本市内小学校	学校保健委員会 [H17年度第3回すこやかサミット] <参加者:児童121名 / 学校職員・保護者・地域住民約100名>	児童の研究発表 *研究発表に対するアドバイス・コメント及び発表サポート	*小学校主催 *熊本市中央保健福祉センターとの連携		消費・安全部消費生活課
28	日時未定 場所未定	出前講座 <参加者:未定>	食事バランスガイドの活用について	*保健所と合同開催予定		宮崎農政事務所
29	日時未定 場所未定	意見交換会 <参加者:未定>	消費者との意見交換会			宮崎農政事務所

プレスリリース

平成18年2月28日

熊本経済記者クラブ各位

九州農政局

3月の食の安全、食育等に関する取組予定について

九州農政局において、3月に予定している食の安全、食育等に関する取組予定及び1月実績を別紙のとおり取りまとめましたので、お知らせします。

なお、現地で取材をされる場合は、事前にご確認のうえ取材を行うようお願いいたします。

(今月の特徴的な取組)

平成17年度第2回九州地域食育推進協議会	2日	熊本市
食について考える意見交換会	8日	大牟田市
元気人気くまもと農業運動		
「やつしろ地産地消「食」・「農」フォーラム	9日	八代市
食育に関する意見交換会		
「楽しんで食育」～食育でがんばる人たち～	9日	福岡市
「食事バランスガイド」説明会	28日	唐津市

【問い合わせ先】

九州農政局消費・安全部消費生活課

担当：課長補佐 坂橋(内線4513)

〒860-8527 熊本市二の丸1 - 2 合同庁舎内

電話：096-353-3561(代表)、096-353-7587(ダイヤル)

FAX：096-359-0735

(別 添)

食の安全、食育等に関する取組予定の問い合わせ先一覧

(17.4.28 現在) NO.1

所 属 課 等 名	役職名	氏 名	電話番号	FAX番号
九州農政局 総務部 情報推進課	課長補佐	森田 修	096-353-3561 (内線4032)	096-311-5280
消費・安全部 消費生活課	課長補佐	坂橋 勝久	(内線4513)	096-359-0735
食糧部 食糧調整課	課長補佐	今吉 利則	096-378-3171 (内線211)	096-379-3974
生産経営流通部 農産課	課長補佐	岡村 巧	096-353-3561 (内線4211)	096-324-1439
農村計画部 農村振興課	課長補佐	宇野 孝	(内線4322)	096-359-7321
整備部 設計課	事業調整室長	東 崇史	(内線4620)	096-311-2450
福岡農政事務所 総務課	食糧調整係長	石橋 悟	092-281-8261	092-281-3202
佐賀農政事務所 総務課	食糧調整係長	島 徳幸	0952-23-3131	0952-22-0544
長崎農政事務所 総務課	食糧調整係長	浦川 敬子	095-822-3291	095-826-1294
大分農政事務所 総務課	食糧調整係長	平井 章一	097-532-6131	097-532-6135
宮崎農政事務所 総務課	食糧調整係長	高田 昌二	0985-22-3181	0985-27-2035
鹿児島農政事務所 総務課	食糧調整係長	石原 親吾	099-222-0121	099-226-4791
福岡統計・情報センター 情報課	行政情報官	高口 和泉	092-411-6725	092-473-1898
佐賀統計・情報センター 情報課	行政情報官	柳島 一清	0952-26-1311	0952-29-6564
長崎統計・情報センター 情報課	課長補佐	馬場 雅美	095-845-3126	095-849-2292
大分統計・情報センター 情報課	課長補佐	小林 典	097-532-6178	097-538-1820
宮崎統計・情報センター 情報課	情報第2係長	狩野 国博	0985-25-3391	0985-29-8442
鹿児島統計・情報センター 情報課	情報第2係長	田中 康弘	099-222-7563	099-224-1501
諫早湾干拓事務所 調査設計課	課 長	渡邊 泰夫	0957-23-3900	0957-27-0030
筑後川下流農業水利事務所 企画設計課	課 長	石川 英一	0942-38-4325	0942-34-0315
宮崎農業水利事務所 企画設計課		廃 止		
尾鈴農業水利事業所 調査設計課	課 長	小谷 匡	0983-27-7411	0983-27-7401
曾於農業水利事務所 企画設計課	課 長	平山 周作	0986-76-6561	0986-76-6562
曾於北部農業水利事業建設所 工事第一課	課 長	影山 義人	0986-28-5017	0986-72-0226

所属課等名	役職名	氏名	電話番号	FAX番号
筑後川下流白石平野農業水利事業所 工事第一課	課長	林 伸一	0952-84-6152	0952-84-6287
川辺川農業水利事業所 工事第一課	課長	宮川 賢治	0966-24-3511	0966-25-1034
大野川上流農業水利事業所	専門技術指導官	上田 純久	0967-25-3007	0974-63-0515
都城盆地農業水利事業所 工事第一課	課長	渡辺 和弘	0986-38-5140	0986-27-5058
西諸農業水利事業所 工事第一課	課長	藤山 健人	0984-25-1236	0984-25-1238
肝属中部農業水利事業所 工事第一課	課長	野口 哲秋	0994-40-9033	0994-40-0098
綾川二期農業水利事業建設所 工事課	課長	酒井 晃一	0985-30-6700	0985-75-9440
徳之島用水農業水利事業所 調査設計課	課長	佐々木 一郎	0997-85-5221	0997-81-2125
佐賀中部農地防災事業所 調査設計課	課長	村下 秀文	0952-33-7020	0952-34-1301
有明海岸保全事業所 工事課	課長	早川 昇	0952-22-4151	0952-29-7850
玉名横島海岸保全事業所 工事課	課長	前田 明	0968-84-4151	0968-75-3010
北部九州土地改良調査管理事務所 調査課	課長	宮本 良一	0942-27-2160	0942-51-3058
南部九州土地改良調査管理事務所 保全対策課	課長	栞山 和男	0986-23-1293	0986-27-1281
土地改良技術事務所 企画情報課	課長	橋本 良男	096-367-0411	096-331-1131
企画調整室	室長補佐	工藤 正孝	096-353-3561 (内線4112)	096-311-5280

第1回協議会における委員ご発言のポイント（メモ）

（注：17年12月5日に開催した標記協議会における各委員のご発言のポイントを、事務局の責任で整理したものである。）

足立委員

【取組状況の要点及び課題】

「たべる・たいせつ」をテーマに生産者と消費者の交流の場を作り、生産者の苦勞、消費者の願いを伝え合う試みを行った。地産地消の取組みで、生協が扱う野菜について、いつ、どこで、どのような野菜が、どれくらい採れるのかの調査を、まずは県内から、続いて全国規模で生協及び全農による調査を行い、切れ目のない国産野菜の品揃えを目指している。

【提案事項】

食をめぐるっては、生産者と消費者の対話が大事。地産地消を県内から日本国内まで広げて考えれば、県内では、標高差の違いで、作物の採れる時期が違うことなどデータを集め、また全国的に調査を行うことで、輸入に頼らない品揃えが可能だと思われる。

郷田委員

【取組状況の要点及び課題】

薬局の中で健康相談並びに、薬局の中の台所を利用した食べる実践場の活動を行い、また、月1回地元の自然農実践場（けんじの学校）で食料講座を担当している。無農薬と不耕起の農業にも取組み、人間が自然の中で共生できるのかということに取り組んでいる。

奄美とも関わりをもっており、奄美の若い人が元気がないのに比べ、高齢者の元気が目立つのは、高齢者が、伝統食を食べて、若い人にも伝統を引き継いでいこうとしている食育活動そのものに、ヒントが隠されていると思われる。

【提案事項】

都会は食についての情報が多くあるが、情報に翻弄されて本当の姿が見えていない。田舎にいればこそ、命の現場が見えてくると思われるので、その命の現場を情報として発信することが大事であると思われる。

伝統や伝承を積極的に掘り起こしていくなど、小さなところから少しずつ情報発信を行い、地域の架け橋にしたい。

食の原点、足元をもう少し見つめることが大事であり、水の問題、森の問題など食を取り巻く広い範囲に目を向けることが必要。

食をめぐるっては、根拠のない情報が余りに多すぎる。ヒトという動物の中でも私たち日本人の主食は植物性の雑食である。気候風土を考えて食べることを考える必要がある。カルシウムの摂取を、牛乳・乳製品だけに限定せずに、日本古来の「だし」の文化を見つめ直すことが必要。

今は、食べることがファッションやブームというのが多すぎる。「食べることは生きること」ということをしっかり考える必要がある。

渋谷委員

【取組状況の要点及び課題】

佐賀県食育推進研究会が15年度に立ち上がり、食育ガイドブックを作成し、それを活用して食育の指導者研修、また、子どもの食育に直接携わる保育園、幼稚園の園長、担当者への研修も実施した。18年1月14日に、「食育推進の集い」を開催し、「災害に学ぶごはん食の大切さ」「日本の食文化」について、佐賀県出身の貝原前兵庫県知事に講演をお願いするとともに、大学生などの若者、JA、PTAの母親等をパネリストにしてパネルディスカッションを行う予定。

【提案事項】

今後の食育のターゲットは、子ども、母親、学生に絞る必要がある。

食品メーカーも一緒に取り組む必要がある。

九州の食育の認知度は高いが、来年度も啓発活動を続ける必要がある。

食育実践の場としての、農業関係者との連携が必要。

竹熊委員

【取組状況の要点及び課題】

NHKテレビで放映中の「チャングムの誓い」の薬膳料理をめぐって、「韓国宮廷料理」が秘める食と医の理想」というシンポジウムが東京新聞の主催で行われ参加した。

漢方では、5つの色、5つの味を基本に、組み合わせることにより病気を治しながら料理をする。私は、砂糖を料理に使わないことにしているが、日本料理では、あらゆる料理に砂糖を使い、年間1人25kgも使っている。韓国では、いまでも砂糖でなく水飴を料理に使っている。

沖縄の人の心筋梗塞の増加の背景には、若い人たちの食生活の乱れが影響している状況が想像できる。

7月の国際シンポジウムの話として、アメリカでは徹底的に砂糖を減らすことで、ガンが減ったという実績が報告されている。

国際的には、ガン撲滅のためには、脂肪も減らし、ミネラルやビタミンの多い食物を食べることが基本的な考えになっている。そのために、有機農業、オーガニックファームが注目されている。

【提案事項】

医学も専門化しているが、専門化してくると全体が見えなくなる。農業においても水耕栽培というものが現実のものとなってきている中、土を使って有機農業に取り組むようなことが顧みられなくなる恐れを感じる。

九州の農業は堆肥の使用量が多く、農薬の使用量が少ない状況は好ましいこと。人の命のために、若い人、妊産婦のために有機農業を進めるべき。

国際的な視野をもって、日本のいいところはどんどん進めて、有機農業に目を向けているなど外国のいいところは取り入れていくことが必要であると思う。

平田委員

【取組状況の要点及び課題】

鹿児島県では、県を挙げて地産地消に取り組んでおり、学校給食でも地場産物の活用のために、地域の生産者、直売所との連携で取り組んでいる。

小・中学校では農村地帯が回りに多いことを利用して、食農の体験活動が盛んに行われており、国、県の支援も受けて出前講座等も行っている。体験活動の収穫物を学校給食に活用出来ているところ、出来ていないところと様々である。学校給食の現場は、衛生管理が厳しくなっているが、できるだけ学校給食への活用に向けて、連携していきたい。

子どもたちの食育は、子どもたち自ら食について学ぶ姿勢を育てることが大事。食べることは、命をつなぐという感覚が大人も含め希薄になっている。体験活動を通して、伝えていくこと、食文化を伝承していくことも大事。

以前、家庭で行われていたことが、途切れてしまいがちな現状にあるが、学校給食を通して食文化、地域の食材を次世代につないでいくことも大切である。

食育の基本は家庭にある。家庭における地産地消など、保護者の毎日の食材を見る目も育ててもらい、保護者と連携して、子どもの食育を進めていきたい。

【提案事項】

子どもたちの食育は、子どもたち自ら食について学ぶ姿勢を育てることが大事。食べることは、命をつなぐという感覚が大人も含め希薄になっている。体験活動を通して、伝えていくこと、食文化を伝承していくことも大事。

食育の基本は家庭にある。家庭における地産地消など、保護者の毎日の食材を見る目も育ててもらうことで、家庭の食卓は大分変わると思われる。

宮田委員

【取組状況の要点及び課題】

30年間循環型農業に取り組んできたが、活動の広がりには限界を感じ、6年前から、「食と農の体験塾」を自分のミカン園を開放する形で取り組んでいる。6年間の経験から言えることは、「継続は力」ということ。年を追うごとに、体験塾の利用者が増えて、去年、今年と年間110日間の取組みとなっており、土日は母子中心で、平日は大人を対象に行っており、ここ1～2年は、大人の体験が増えている。

すべて、手作りの料理で、子どもが実際自分の手を使って作る料理を喜んで食べる様子には、毎回のように親は驚かされている。

地産地消、食育の向こう側には、健康問題や、環境保全の問題など、重大な問題が控えていると思われる。食の大切さを分かり、本物を見る目を養ってもらうためには、現場なしではやれないという思いを強くしている。

【提案事項】

特に子どもの場合、自分の手を使って自分の食べ物を作るということを実際にやってみる機会が如何に大事なことかと思われる。実体験に勝るものはない。

矢住委員

【取組状況の要点及び課題】

消費者協会の役割は、消費生活コンサルタント、消費生活アドバイザー、相談員の集まりで、消費者の苦情相談の対応が主となるが、食育の面では、市からの委託事業の出前講座で、「食事バランスガイド」のポスター、リーフレット等を利用した啓発、指導を行っている。年4回協会から出しているコンシューマーレポートにも「食事バランスガイド」の記事を掲載することになっている。その他、エコクッキングに参加の食改さんや婦人グループにも「食事バランスガイド」の周知活動を予定している。熊本市の市政だより（17年12月号）には「食事バランスガイド」が載せられ、熊本市内全部の人に周知される取組みとなっている。

協会の取組姿勢として、食育をめぐる最新の情報を入手しながら対応していきたい。

【提案事項】

佐賀県の取組事例をみての感想として、行政、普及センター、学校、幼稚園が一丸となって取り組む体制作りの大事さを感じる。マスコミとの連携も大事。

養父委員

【取組状況の要点及び課題】

「九州のムラ」という雑誌を出しているが、持論として、「ムラなくして食育なし」ということをずっと考えてやってきた。最近では、雑誌だけでなく、実体経済につなげられないかということで、活動している。

食育については、家庭の場、民間の場、学校給食以外の行政における取組みについて紹介したい。

家庭の場の取組みとして、大分県の「とうがらし」という伝統食工房に取り組んでいる金丸さんの取組みを紹介したい。長年家庭科の教諭を務められていたが、教科書の中には画一的な話ばかりで、大分の地元の伝統料理等の紹介が全然ないことに疑問を感じ、自ら伝統食工房を立ち上げられ、その活動の中で、月1回「孫の日」を設けて、孫を集め、味噌づくりや、色々な食の勉強会を行われており、「伝えたいことは日常茶飯の中にある」ということを実践されている。

民間の取組みとして、去年「ムラ市場」が企画して、小倉に「むらごはん」をオープンさせた。宮田委員の羽釜のごはんのおいしさを、街の中に拡大するような取組みとして、おにぎり屋を開いたり、九州各地から国産無添加の加工品を集めたりしている。また、「九州のムラ 食の学校」を開校し、これまで20回ほど講座を開いている。実際に加工品の製造者に来てもらい、体験型の学校にしている。

1回目は、醤油を取り上げ、阿蘇の農家との連携で大豆の契約栽培を行ってもらい、丸大豆を使った醤油づくりに取り組んでいる熊本の不知火の松合食品の取組みを紹介している。国産丸大豆を使った本醸造の醤油と、アミノ酸等等を加えた醤油との味比

べでは、8割方は添加物入りの醤油をうまいと答えるが、高齢の2割くらいの人は、本醸造の味がうまいと答えられ、本当の味が分かる人がちゃんといらっしゃる。

減塩ブームについても、塩を作っている人からは、そもそも、塩は保存料として使われており、塩を使わないなら、代わりに他の保存料が必要になるという理屈を伝えてもらった。

行政が行う食育について、10月に福岡県が開催した「筑後スローフードフェスタ」を紹介したい。筑後川流域26市町村が一体となったイベントで、そこに世界のシェフと言われる三國さんが来て、地元食材を使った料理等されたが、三國シェフは、「キッズシェフ」という活動をしておられる。これは、味覚教育の取組みであり、「子どもは放っておけば、甘いものと柔らかいものしか食べなくなる。特に苦みというのは、昔は、魚の内臓や、山菜など、親や祖父母が強いて食べさせることで、嫌がる子どもも味覚が発達して、食べられるようになる。」ということばが印象に残っており、そのような味覚教育も必要だと思われる。

【提案事項】

家庭の場での食育は伝統食に常日頃親しむことが大事。加工食品は、在来の本物の製法で作られたものに親しむことが大事。子どもの味覚教育も大事。

吉田委員

【取組状況の要点及び課題】

高校生、大学生のひどい食の状況を見るとき、彼らには、食べものは、自分に命をつないでいるという感覚がない、ただの栄養成分を摂っているとの意識しかないと思われる。食育は体験を通して行わないと、経験が身に付かない。決めては体験しかない。学校や保育園などで、生ごみを使った野菜づくりの体験活動を行っている。採れる野菜は、実にすばらしい品質で、命一杯の土からできたもの。子どもは、生ごみリサイクル元気野菜づくりの体験を通して、土を通して、命のつながりを理解する。耕作放棄地は、ミネラルバランスの整った土になっているため、元気な野菜が育つ。

子どものおなか畑の土づくりのためには、雑穀類をしっかり噛んで食べることで、うんちの量が増え、アトピーが治ったり、低体温症状が改善されたりという実績がある。精神的には、子どもの落ち着きも出てきている。データをさらに集めて、元気な子どもたちになるような取り組みに役立てたい。

【提案事項】

土に意識を置いた食育、特に有機農業が盛んな九州で、土が元気になれば、その元気が人間につながっていくということを体験させるような食育が広がってほしい。

栄養バランスを考えると、抗酸化栄養素が多く含まれていることが分かってきている野菜の皮や生長点も頂くというのも、ひとつのバランスの考え方であるということ色々な機会に紹介していただくとありがたい。

以上